

(柏崎) R080406

令和 8 年度

柏崎刈羽原子力発電所周辺 環境放射線監視調査結果速報

第 1 四半期（4 月～6 月）

令和 8 年 8 月

新 潟 県
東京電力ホールディングス株式会社

令和8年度

**柏崎刈羽原子力発電所周辺
環境放射線監視調査結果速報**

第1四半期（4月～6月）

令和8年8月

新 潟 県

目 次

I	監視調査結果の概要	1
II	監視調査の実施機関	3
III	監視調査の内容	3
1	監視調査項目	3
2	監視調査地点	4
(1)	空間放射線測定地点	4
(2)	環境試料採取地点	5
3	測定方法及び測定装置	6
IV	監視調査結果	7
1	空間放射線	7
(1)	空間放射線量率	7
(2)	積算線量	8
2	環境試料中の放射能	9
(1)	テレメータシステムによる測定	9
ア	大気中放射性ヨウ素	9
イ	浮遊じんの放射能	9
(2)	核種分析結果（機器分析）	11
(3)	〃（ストロンチウム90の放射化学分析）	12
(4)	〃（トリチウムの放射化学分析）	13
(5)	〃（プルトニウムの放射化学分析）	13
3	気象要素	14
	添付資料	15
	事象報告	29

単 位 の 略 字

単 位	単位の略字
ナノグレイ毎時	nGy/h
ミリグレイ毎 91 日	mGy/91 日
ベクレル毎立方メートル	Bq/m ³
ベクレル毎リットル	Bq/L
ベクレル毎平方メートル	Bq/m ²
ベクレル毎キログラム乾	Bq/kg 乾
ベクレル毎キログラム生	Bq/kg 生

新潟県は、柏崎刈羽原子力発電所周辺の環境放射線監視調査を「令和8年度 柏崎刈羽原子力発電所周辺環境放射線監視調査年度計画」に基づき実施しているが、令和8年4月から6月までの第1四半期における監視調査結果をとりまとめたので報告する。

令和8年度の測定結果は、次表に示す2つの対照期間の測定値の範囲と比較して、3つに区分した。ただし、空間放射線については、事前調査期間は対照期間に含めず、対照期間の測定値との比較にあたっては、計数誤差を考慮せず、〔超える〕又は〔範囲内〕に区分した。

対照期間	・直 近：直近5カ年（令和3～7年度） ・事 前：事前調査期間（調査開始～昭和59年12月）
区 分	・超える：測定結果の計数誤差を加味しても対照期間の測定値の上限値を超える場合 ・同程度：測定結果が対照期間の測定値の上限値を超えるが、計数誤差を加味すると対照期間の測定値の上限値と同程度となる場合 ・範囲内：測定結果が対照期間の測定値の上限値を超えない場合

なお、四半期報告では、自然放射線の季節変動があることを考慮した上で測定結果を判断するために、空間放射線量率、積算線量、大気中放射性ヨウ素及び浮遊じんの放射能の測定値を対照期間（直近）の同一四半期の測定値とも比較した。

I 監視調査結果の概要

令和8年4月から6月までの第1四半期に実施した柏崎刈羽原子力発電所周辺の環境放射線監視調査結果の概要は以下のとおりである。

1 空間放射線

(1) 空間放射線量率〈詳細はp7及びp31事象報告1参照〉

11局のモニタリングポストにおける測定結果について、最高値の範囲は57～74 nGy/h、平均値の範囲は 33～39 nGy/hであった。

宮川局では同一四半期における対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた。

対照期間（直近）の同一四半期における最高値は 84 nGy/hである。

(2) 積算線量〈詳細はp8参照〉

監視調査地域内の11局における測定結果について、測定値の範囲は 0.10～0.12 mGy/91日、平均値は 0.11 mGy/91日であり、対照期間の測定値の範囲内であった。

対照期間（直近）の同一四半期における最高値は 0.12 mGy/91日である。

対照地域における測定結果について、新潟局では 0.14 mGy/91日であり、対照期間の測定値の範囲内であった。

対照地域における対照期間（直近）の同一四半期における最高値は 0.15 mGy/91日である。

2 環境試料中の放射能

(1) テレメータシステムによる測定

ア 大気中放射性ヨウ素〈詳細はp9参照〉

柏崎市街局、刈羽局及び西山局におけるヨウ素モニタによる測定結果は、すべて検出下限値未満であった。

イ 浮遊じんの放射能〈詳細はp9～p10及びp35事象報告2参照〉

柏崎市街局、刈羽局及び西山局におけるダストモニタによる集じん終了直後の全ベータ放射能の測定結果について、最高値の範囲は 3.5～4.7 Bq/m³、平均値は 1.1 Bq/m³であり、対照期間の測定値の範囲内であった。

対照期間（直近）の同一四半期における最高値は 6.0 Bq/m³である。

集じん終了5時間後の全ベータ放射能の測定結果について、最高値の範囲は 0.16～0.24 Bq/m³、平均値は 0.043 Bq/m³であり、対照期間の測定値の範囲内であった。

対照期間（直近）の同一四半期における最高値は 0.35 Bq/m³である。

また、集じん位置における全ベータ／全アルファ放射能比について、最高値の範囲は 3.4～3.7、平均値は 2.6 であり、西山局で同局の同一四半期における対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた。

対照期間（直近）の同一四半期における最高値は 3.9 である。

(2) 核種分析（機器分析）〈詳細はp11参照〉

浮遊じん、降下物、陸水（飲料水、原水、河川水）、畜産物（牛乳（原乳））、海水、海底土、海産物（マダイ、ワカメ、モズク類）及び指標生物（ホンダワラ類）を分析した結果、セシウム137が畜産物（牛乳（原乳））、海水、海産物（マダイ）及び指標生物（ホンダワラ類）から検出されたが、指標生物（ホンダワラ類）を除き、対照期間の測定値の範囲内であった。指標生物（ホンダワラ類）は、対照期間（直近）の測定値と同程度であった。

(3) 核種分析（ストロンチウム90の放射化学分析）〈詳細はp12参照〉

陸水（飲料水）、畜産物（牛乳（原乳））、海産物（ワカメ）及び指標生物（ホンダワラ類）は測定中である。

(4) 核種分析（トリチウムの放射化学分析）〈詳細はp13参照〉

大気、陸水（飲料水、原水、河川水）及び海水を分析した結果、大気から同核種が検出されたが、対照期間の測定値の範囲内であった。

(5) 核種分析（プルトニウムの放射化学分析）〈詳細はp13参照〉

海底土は測定中である。

Ⅱ 監視調査の実施機関

新潟県放射線監視センター

Ⅲ 監視調査の内容

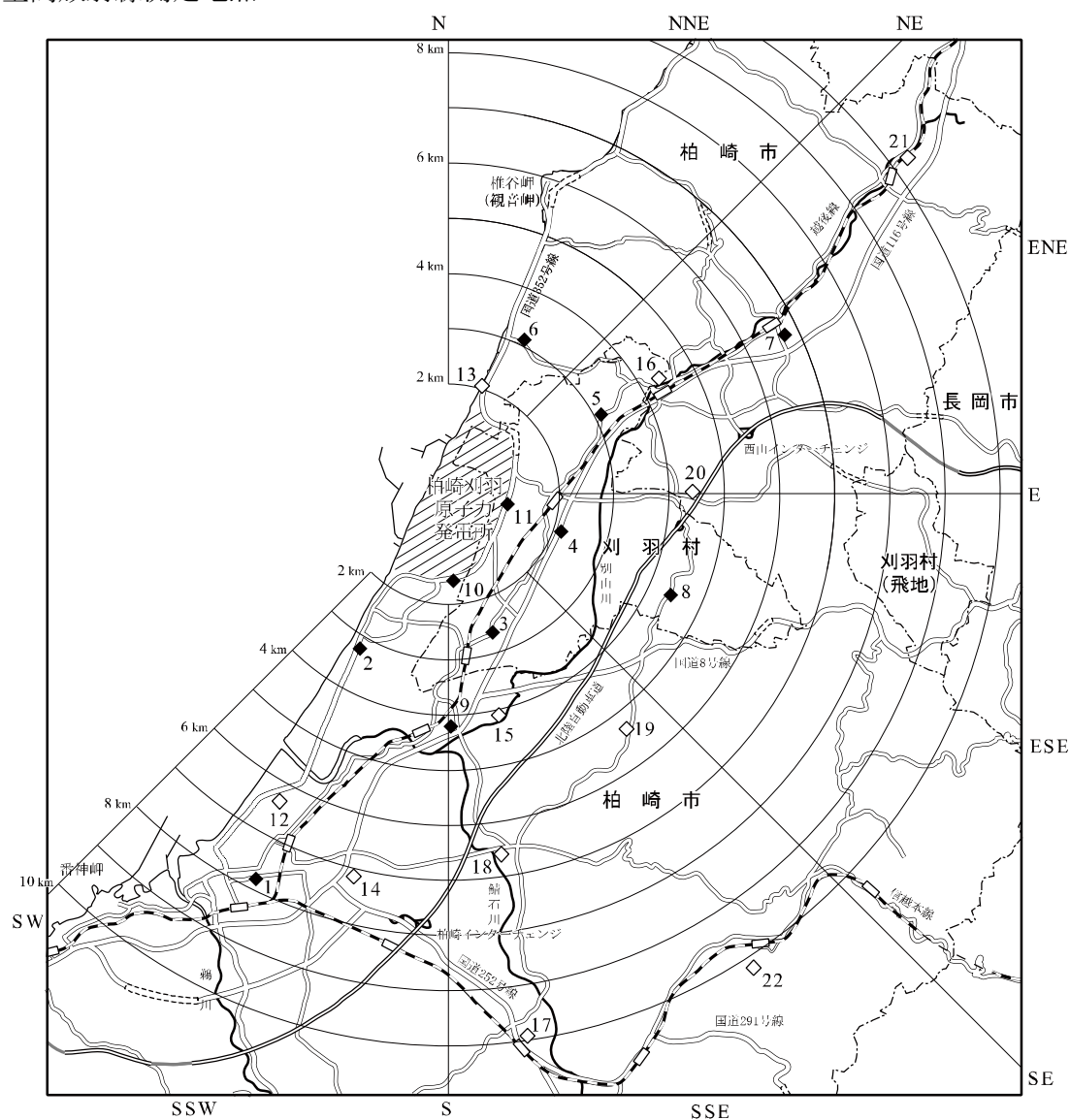
監視調査結果の速報にあたり、令和８年度 柏崎刈羽原子力発電所周辺環境放射線監視調査年度計画の概要を示す。

１ 監視調査項目

- (1) 空間放射線の測定
 - ア 空間放射線量率
 - イ 積算線量
- (2) 環境試料中の放射能測定
 - ア テレメータシステムによる測定
 - イ 核種分析（機器分析）
 - ウ 核種分析（ストロンチウム90の放射化学分析）
 - エ 核種分析（トリチウムの放射化学分析）
 - オ 核種分析（プルトニウムの放射化学分析）
- (3) 気象要素の観測

2 監視調査地点

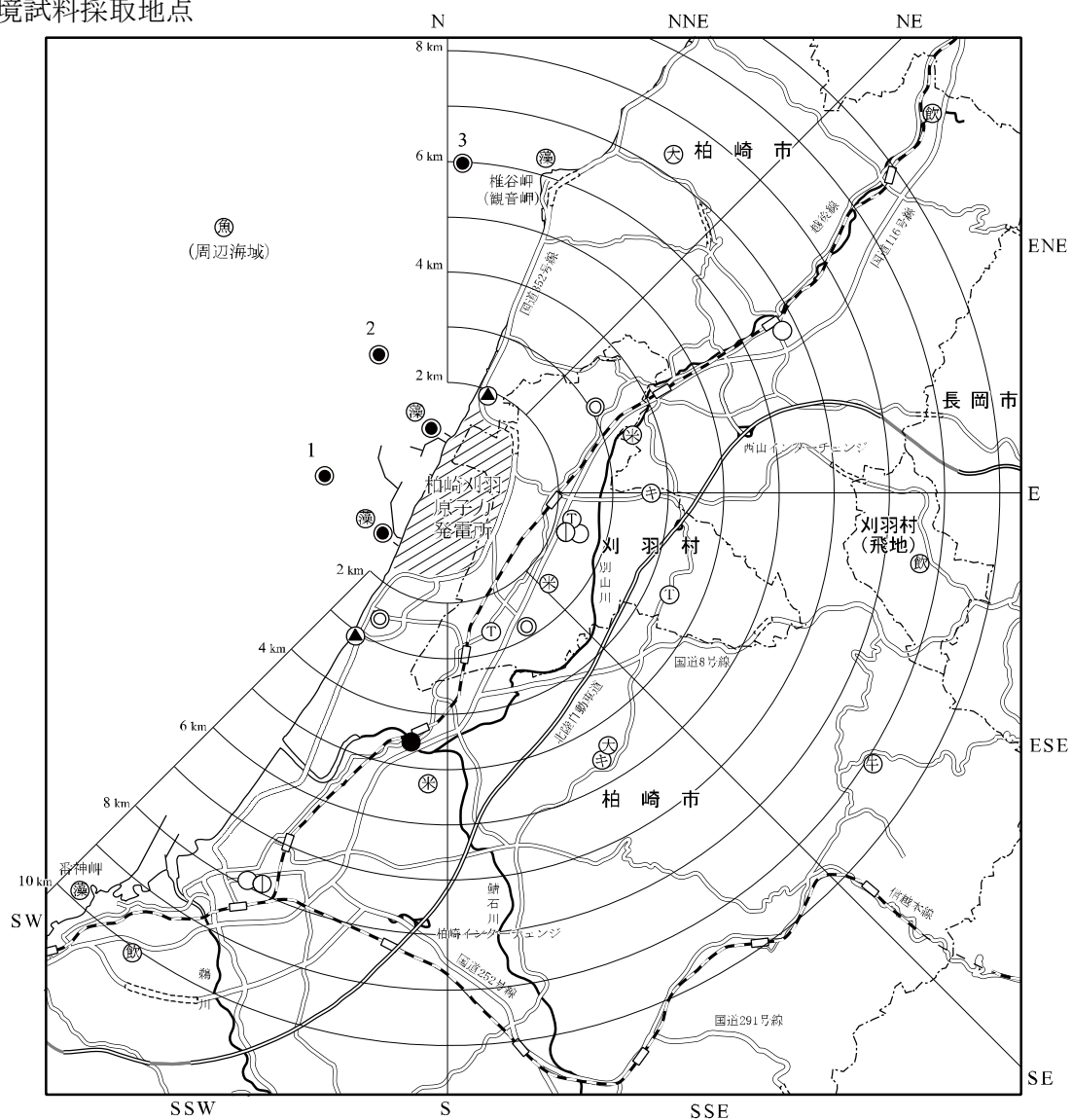
(1) 空間放射線測定地点



No	モニタリングポスト	方位	距離(km)	No	モニタリングポイント	方位	距離(km)
1	◆ 柏崎市街局	SSW	7.8	12	◇ 北園町局	SSW	6.6
2	◆ 荒浜局	SSW	3.4	13	◇ 大湊局	NNE	2.0
3	◆ 下高町局	SSE	2.5	14	◇ 三和町局	SSW	7.3
4	◆ 刈羽局	ESE	2.1	15	◇ 下大新田局	S	4.1
5	◆ 勝山局	ENE	3.1	16	◇ 長嶺局	ENE	4.4
6	◆ 宮川局	NNE	3.1	17	◇ 安田局	S	9.9
7	◆ 西山局	ENE	6.6	18	◇ 中田局	S	6.5
8	◆ 赤田町方局	ESE	4.3	19	◇ 吉井局	SE	5.4
9	◆ 土合局	S	4.2	20	◇ 北野局	E	4.4
10	◆ 発電所南局	S	1.6	21	◇ 別山局	NE	10.4
11	◆ 発電所北局	E	1.1	22	◇ 広田局	SE	10.3
				23	◇ 新潟局 (対照地点)	NE	55.1
◆ : モニタリングポスト ◇ : モニタリングポイント							

(注) 監視調査地域内の測定地点のみ図示

(2) 環境試料採取地点



記号	環境試料名	採取地点数	記号	環境試料名	採取地点数
○	大 気 中 放 射 性 ヨウ素・浮遊じん	3	㊦	キ ャ ベ ツ	2
㊤	大 気 (大 気 中 水 分)	4※	㊦	大 根	2
㊥	降 下 物	2	㊧	原 乳	1
㊦	飲 料 水 ・ 原 水	3	㊨	松 葉	2
●	河 川 水	1	㊩	海水及び海底土	5
◎	陸 土	3	㊪	魚 貝 類	4 種類
⊕	精 米	3	㊫	藻 類	3 種類

※うち1地点は対照地点として新潟市で採取

(注) 監視調査地域内の測定地点のみ図示

3 測定方法及び測定装置

監視調査項目			測定方法	測定装置
空間放射線	空間放射線量率		原子力規制庁編「連続モニタによる環境 γ 線測定法」(平成 29 年改訂)に準拠 環境放射線監視テレメータシステムによる年間連続測定	・NaI(Tl)シンチレーション検出器 2" ϕ $\times$ 2" 円柱形 ・シリコン半導体検出器(参考)
	積算線量		文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境 γ 線量測定法」(平成 14 年制定)に準拠 3か月積算の繰り返しによる年間連続測定	・蛍光ガラス線量計 ・蛍光ガラス線量計リーダ
環境試料中の放射能	テレメータシステムによる測定	大気	360 keV $\pm$ 10%の範囲内のエネルギーを有するガンマ線を計測	・ヨウ素モニタ 2" ϕ $\times$ 2" 円柱形
		浮遊じん	原子力規制庁編「大気中放射性物質測定法」(令和 4 年制定)に準拠	・ダストモニタ ZnS(Ag)及びプラスチックシンチレーション検出器 50 mm ϕ
	核種分析	機器分析	原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器による γ 線スペクトロメトリー」(令和 2 年改訂)に準拠	・ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータ 高純度ゲルマニウム半導体検出器
		ストロンチウム 90	原子力規制庁編「放射性ストロンチウム分析法」(令和 7 年改訂)に準拠	・低バックグラウンド自動測定装置 2π ガスフロー式GM管(窓なし)
		トリチウム	原子力規制庁編「トリチウム分析法」(令和 5 年改訂)に準拠	・低バックグラウンド液体シンチレーションカウンタ
		プルトニウム	文部科学省編「プルトニウム分析法」(平成 2 年改訂)に準拠	・アルファ線エネルギー分光分析装置 シリコン半導体検出器
	風向、風速 日射量 放射収支量 気温 湿度 降水量 感雨 積雪量		「気象業務法施行規則」(国土交通省令第 101 号)に定める技術基準(放射収支量及び感雨は技術基準なし)に合致した環境放射線監視テレメータシステムでの 10 分間測定又は 10 分間隔測定繰り返しによる連続観測	・風向風速計 ・日射計 ・放射収支計 ・温度計 ・湿度計 ・雨雪量計 ・感雨計 ・積雪深計

Ⅳ 監視調査結果

1 空間放射線

(1) 空間放射線量率

(単位: nGy/h)

測定地点 (モニタリングポスト)	令和8年度第1四半期の測定結果				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)		
	測定時間 (時間)	平均値	測定値の範囲		< 直 近 >		< 事 前 > 事前調査期間 (S58.10～S59.12)
			1 時間値	10 分値	直近5カ年の 第1四半期 (R3～7年度)	直近5カ年 (R3～7年度)	
柏崎市街局	2,174	37	35 ～ 56	34 ～ 57	35 ～ 69	21 ～ 105	17 ～ 126
荒 浜 局	2,175	36	34 ～ 59	33 ～ 61	33 ～ 74	19 ～ 112	16 ～ 108
下高町局	2,173	39	36 ～ 66	35 ～ 68	35 ～ 77	14 ～ 131	8 ～ 119
刈 羽 局	2,174	36	34 ～ 59	33 ～ 63	32 ～ 71	15 ～ 130	10 ～ 155
勝 山 局	2,176	33	30 ～ 61	30 ～ 64	29 ～ 66	9 ～ 113	10 ～ 122
宮 川 局	2,176	38	36 ～ 71	35 ～ 74	35 ～ 67	22 ～ 101	15 ～ 137
西 山 局	2,176	38	36 ～ 67	35 ～ 69	35 ～ 71	14 ～ 116	15 ～ 138
赤田町方局	2,175	38	36 ～ 61	35 ～ 62	35 ～ 71	21 ～ 132	
土 合 局	2,176	33	30 ～ 67	30 ～ 68	30 ～ 84	9 ～ 154	
発電所南局	2,174	34	32 ～ 58	31 ～ 61	29 ～ 71	11 ～ 131	
発電所北局	2,174	34	31 ～ 59	31 ～ 64	31 ～ 69	11 ～ 108	
全 局	23,923	36	30 ～ 71	30 ～ 74	29 ～ 84	9 ～ 154	8 ～ 155

- (注) 1 対照期間の測定結果は、10 分値である。
2 荒浜局及び西山局の事前調査期間は、昭和 59 年 4 ～ 12 月である。
3 モニタリングポストごとの測定時間数は 10 分値のデータ数を基に計算しており、この合計と全局の測定時間数が一致しないことがある。
4 赤田町方局及び土合局は平成 14 年 2 月から測定を開始した。
5 発電所南局及び発電所北局は平成 21 年度から測定を開始した。

(2) 積算線量

(単位：mGy/91日)

測 定 地 点 (モニタリングポイント)		令和 8 年度第 1 四半期 の 測 定 結 果 〔 積算開始：令和 8. 3. 12 積算終了：令和 8. 6. 18 積算期間：98日間 〕	対照期間の測定結果（測定値の範囲）	
			< 直 近 > 直近 5 カ年の 第 1 四半期 (R 3 ～ 7 年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S58. 10～S59. 12)
監 視 調 査 地 域	北 園 町 局	0. 12	0. 12	0. 10 ～ 0. 12
	大 湊 局	0. 10	0. 10	0. 10 ～ 0. 11
	三 和 町 局	0. 11	0. 11 ～ 0. 12	0. 10 ～ 0. 12
	下大新田局	0. 11	0. 11 ～ 0. 12	0. 10 ～ 0. 12
	長 嶺 局	0. 11	0. 11 ～ 0. 12	0. 10 ～ 0. 13
	安 田 局	0. 11	0. 11 ～ 0. 12	0. 09 ～ 0. 12
	中 田 局	0. 12	0. 12	0. 10 ～ 0. 13
	吉 井 局	0. 11	0. 11 ～ 0. 12	0. 09 ～ 0. 13
	北 野 局	0. 11	0. 11 ～ 0. 12	0. 10 ～ 0. 12
	別 山 局	0. 12	0. 12	0. 10 ～ 0. 13
	広 田 局	0. 11	0. 11 ～ 0. 12	0. 09 ～ 0. 13
	平 均 値	0. 11	—	—
	最 高 値	0. 12	0. 12	0. 13
	最 低 値	0. 10	0. 10	0. 09
対 照 地 域	新 潟 局	0. 14	0. 14 ～ 0. 15	

- (注) 1 事前調査期間の測定結果は熱蛍光線量計 (TLD) による値である。
2 新潟局は令和 2 年度から測定を開始した。

2 環境試料中の放射能

(1) テレメータシステムによる測定

ア 大気中放射性ヨウ素

(単位：Bq/m³)

測定地点 (モニタリング ステーション)	令和8年度第1四半期の測定結果				対照期間の測定結果（測定値の範囲）		
	捕集回数 (回)	平均空気 吸引量 (m ³ /回)	平均値	測定値の範囲	< 直 近 >		< 事 前 > 事前調査期間 (S58.10～S59.12)
					直近5カ年の 第1四半期 (R3～7年度)	直近5カ年 (R3～7年度)	
柏崎市街局	90	73.9	*	*	*	*	*
刈羽局	90	74.5	*	*	*	*	*
西山局	90	75.1	*	*	*	*	
全 局	計 270	74.5	*	*	*	*	*

- (注) 1 捕集時間は、当日12時から翌日12時までの24時間である。
 2 測定値は、捕集終了直後の放射能濃度である。
 3 検出下限値未満は、*とした。
 4 西山局は平成14年度から測定を開始した。
 5 事前調査期間の測定結果は10分間捕集によるものである。
 6 令和元年度より、測定期間を各四半期1か月から連続へ変更した。

イ 浮遊じんの放射能

(ア) 集じん終了直後の全ベータ放射能測定結果

(単位：Bq/m³)

測定地点 (モニタリング ステーション)	令和8年度第1四半期の測定結果				対照期間の測定結果（測定値の範囲）		
	捕集回数 (回)	平均空気 吸引量 (m ³ /回)	平均値	測定値の範囲	< 直 近 >		< 事 前 > 事前調査期間 (S58.10～S59.12)
					直近5カ年の 第1四半期 (R3～7年度)	直近5カ年 (R3～7年度)	
柏崎市街局	360	72.6	1.1	0.064 ～ 3.5	0.041 ～ 3.6	0.026 ～ 4.3	0.11 ～ 6.2
刈羽局	360	72.1	1.1	0.076 ～ 4.0	0.045 ～ 4.4	0.024 ～ 5.3	0.13 ～ 10
西山局	360	72.8	1.2	0.078 ～ 4.7	0.044 ～ 6.0	0.030 ～ 6.1	
全 局	計 1,080	72.5	1.1	0.064 ～ 4.7	0.041 ～ 6.0	0.024 ～ 6.1	0.11 ～ 10

- (注) 1 放射能濃度の有効数字は2桁である。
 2 西山局は平成14年度から測定を開始した。

(イ) 集じん終了5時間後の全ベータ放射能測定結果

(単位：Bq/m³)

測定地点 (モニタリング ステーション)	令和8年度第1四半期の測定結果				対照期間の測定結果（測定値の範囲）		
	捕集回数 (回)	平均空気 吸引量 (m ³ /回)	平均値	測定値の範囲	< 直 近 >		< 事 前 > 事前調査期間 (S58.10～S59.12)
					直近5カ年の 第1四半期 (R3～7年度)	直近5カ年 (R3～7年度)	
柏崎市街局	360	72.6	0.036	* ～ 0.16	* ～ 0.17	* ～ 0.22	* ～ 0.40
刈羽局	360	72.1	0.046	* ～ 0.21	* ～ 0.35	* ～ 0.36	* ～ 1.1
西山局	360	72.8	0.047	* ～ 0.24	* ～ 0.31	* ～ 0.36	
全 局	計 1,080	72.5	0.043	* ～ 0.24	* ～ 0.35	* ～ 0.36	* ～ 1.1

- (注) 1 検出下限値未満は、*とした。
 2 放射能濃度の有効数字は2桁である。
 3 西山局は平成14年度から測定を開始した。

(ウ) 全ベータ／全アルファ放射能比の測定結果

測定地点 (モニタリング ステーション)	令和8年度第1四半期の測定結果			対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
	測定回数 (回)	平均値	測定値の範囲	< 直 近 >	
				直近5カ年の 第1四半期 (R3～7年度)	直近5カ年 (R3～7年度)
柏崎市街局	13,032	2.7	1.9 ～ 3.4	0.16 ～ 3.9	0.16 ～ 7.3
刈羽局	13,032	2.6	1.5 ～ 3.6	1.7 ～ 3.9	0.61 ～ 4.8
西山局	13,032	2.6	2.0 ～ 3.7	0.77 ～ 3.6	0.017 ～ 5.5
全 局	計 39,096	2.6	1.5 ～ 3.7	0.16 ～ 3.9	0.017 ～ 7.3

- (注) 1 測定結果は、集じん位置で測定した全ベータ放射能と全アルファ放射能の10分値の比である。
 2 全ベータ／全アルファ放射能比は平成20年度から測定を開始した。

(2) 核種分析結果（機器分析）

試 料		単 位	令和8年度 第1四半期 の測定結果 (測定値の範囲)	対 照 期 間 の 測 定 結 果 (当該核種の測定値の範囲)	
				< 直 近 > 直近5カ年 (R3～7年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S59.12まで)
浮遊じん (月 間)		Bq/m ³	Cs-137 *	*	*
降下物 (月 間)		Bq/m ²	Cs-137 *	* ～ 0.052	* ～ 0.44
陸 水	飲料水	Bq/L	Cs-137 *	*	*
	原 水		Cs-137 *	*	
	河川水		Cs-137 *	*	*
土 壤	陸 土	Bq/kg 乾		1.2 ～ 18	* ～ 120
農 産 物	米 (精米)	Bq/kg 生		* ～ 0.052	0.026 ～ 0.18
	キャベツ			* ～ 0.035	* ～ 0.27
	大 根 (葉部)			* ～ 0.11	0.24 ～ 2.2
	大 根 (根部)			* ～ 0.030	0.044 ～ 1.9
畜 産 物	牛 乳 (原乳)	Bq/L	Cs-137 0.016	* ～ 0.019	* ～ 0.81
指標生物	松 葉	Bq/kg 生		* ～ 0.066	0.23 ～ 4.4
海 水		Bq/L	Cs-137 * ～ 0.0022	* ～ 0.0024	* ～ 0.0074
海 底 土		Bq/kg 乾	Cs-137 *	*	* ～ 22
海 産 物	マガレイ	Bq/kg 生		0.052 ～ 0.080	0.11 ～ 0.35
	マダイ		Cs-137 0.093	0.078 ～ 0.10	0.28 ～ 0.44
	ヒラメ			0.070 ～ 0.10	0.24 ～ 0.30
	サザエ			*	
	ワカメ		Cs-137 *	*	*
	モズク類		Cs-137 *	*	
指標生物	ホンダ ワラ類	Bq/kg 生	Cs-137 * ～ 0.073	* ～ 0.070	*

- (注) 1 Cs-137 以外の人工放射性核種が検出されない試料については、Cs-137 の放射能濃度を記した。
2 検出下限値未満は、*とした。
3 放射能濃度の有効数字は2桁である。
4 降下物の単位は、放射能面密度である。
5 陸水（原水）は平成24年度から、海産物（サザエ）は平成5年度から、海産物（モズク類）は平成17年度から測定を開始した。
6 計数誤差を併記した指標生物（ホンダワラ類）の Cs-137 濃度：0.073±0.022 Bq/kg 生
（対照期間（直近）の最大値：0.070 Bq/kg 生）

(3) 核種分析結果（ストロンチウム 90 の放射化学分析）

試 料		単 位	令和 8 年度 第 1 四半期 の測定結果 (測定値の範囲)	対 照 期 間 の 測 定 結 果 (当該核種の測定値の範囲)	
				< 直 近 > 直近 5 カ年 (R 3 ～ 7 年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S59. 12 まで)
陸 水	飲料水	Bq/L	測定中	0.00052 ～ 0.0012	
農 産 物	米 (精米)	Bq/kg 生		* ～ 0.012	0.014 ～ 0.052
	キャベツ			0.0099 ～ 0.11	
	大 根 (根部)			0.012 ～ 0.063	0.11 ～ 6.7
畜 産 物	牛 乳 (原乳)	Bq/L	測定中	0.0085 ～ 0.023	0.021 ～ 0.67
海 産 物	マガレイ	Bq/kg 生		* ～ 0.013	
	サザエ			* ～ 0.0087	
	ワカメ		測定中	0.012 ～ 0.018	
指標生物	ホンダ ワラ類	Bq/kg 生	測定中	0.016 ～ 0.040	0.029 ～ 0.59

- (注) 1 検出下限値未満は、*とした。
2 放射能濃度の有効数字は2桁である。
3 海産物（サザエ）は平成5年度から、陸水（飲料水）、農産物（キャベツ）及び海産物（マガレイ、ワカメ）は令和元年度から測定を開始した。

(4) 核種分析結果（トリチウムの放射化学分析）

試 料		単 位	令和8年度 第1四半期 の測定結果 (測定値の範囲)	対 照 期 間 の 測 定 結 果 (当該核種の測定値の範囲)	
				< 直 近 > 直近5カ年 (R3～7年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S59.12まで)
大 気 (月 間)	監視地域	Bq/m ³	0.0034 ～ 0.0084	* ～ 0.015	
	対照地域		0.0041 ～ 0.0072	* ～ 0.013	
陸 水	飲料水	Bq/L	*	* ～ 0.45	1.5 ～ 2.6
	原 水		*	*	
	河川水		*	* ～ 0.67	1.0 ～ 1.4
海 水		Bq/L	*	*	* ～ 1.7

- (注) 1 検出下限値未満は、*とした。
 2 放射能濃度の有効数字は2桁である。
 3 大気は平成17年度から、陸水（原水）は平成24年度から測定を開始した。

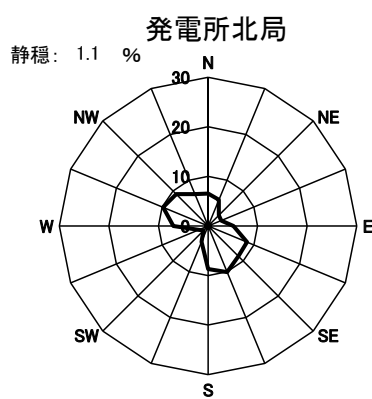
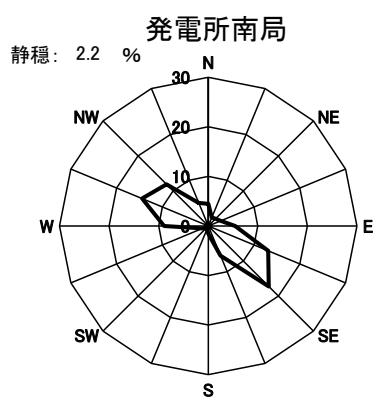
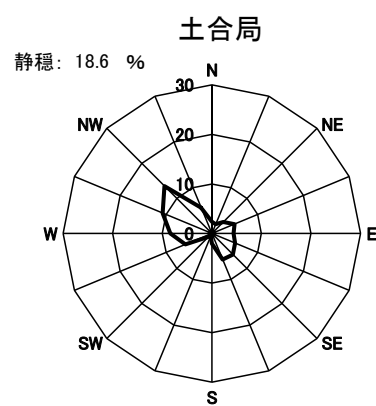
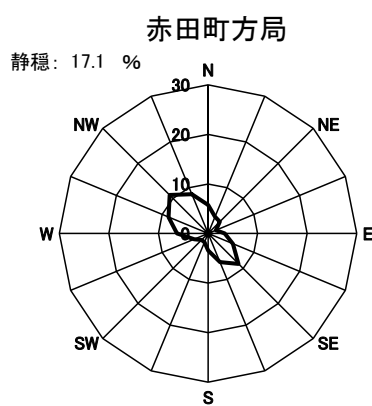
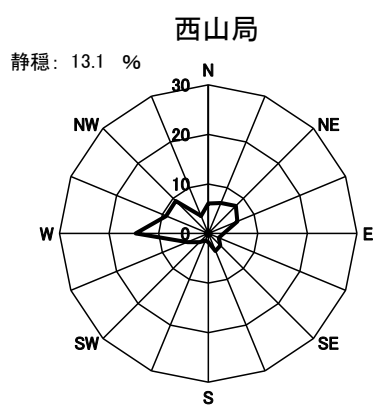
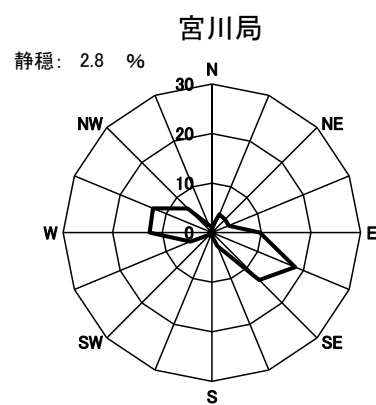
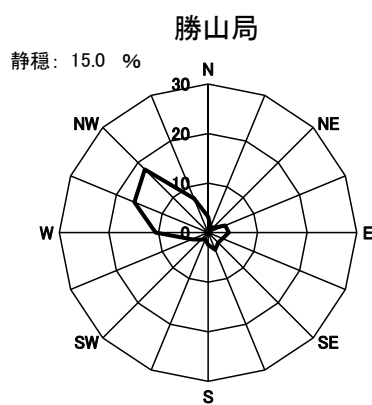
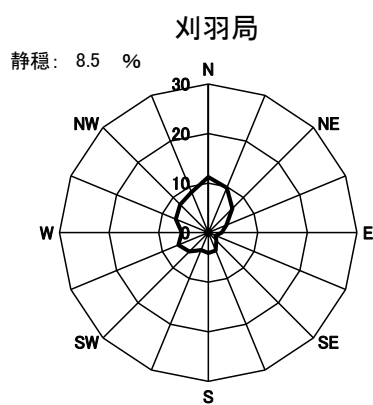
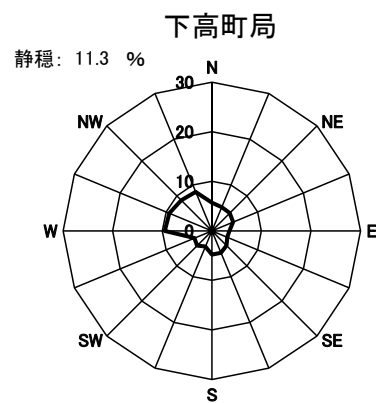
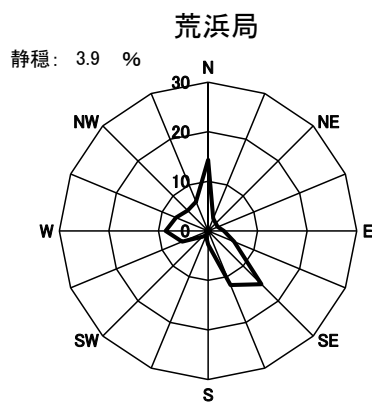
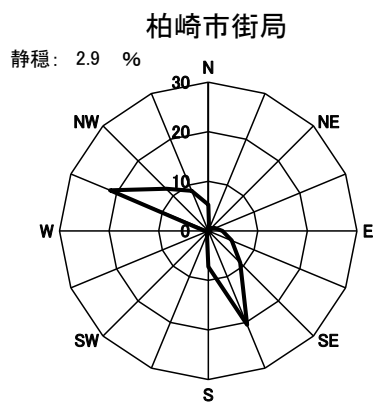
(5) 核種分析結果（プルトニウムの放射化学分析）

試 料		単 位	令和8年度 第1四半期 の測定結果 (測定値の範囲)	対 照 期 間 の 測 定 結 果 (当該核種の測定値の範囲)	
				< 直 近 > 直近5カ年 (R3～7年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S59.12まで)
浮遊じん (月間)	Bq/m ³			Pu-238 *	
				Pu-239+240 *	1.3×10 ⁻⁷
降 下 物 (月間)	Bq/m ²			Pu-238 *	
				Pu-239+240 * ～ 0.0014	0.0030
海 底 土	Bq/kg 乾	Pu-238 測定中		Pu-238 *	
		Pu-239+240 測定中		Pu-239+240 0.076 ～ 0.16	0.17 ～ 0.18

- (注) 1 検出下限値未満は、*とした。
 2 放射能濃度の有効数字は2桁である。
 3 降下物の単位は、放射能面密度である。
 4 Pu-238の解析は平成23年度から開始した。
 5 Pu-239とPu-240はそれぞれ放出するα線のエネルギーが近接してα線スペクトロメトリーでは分離ができないため、両核種の和を求めている。

3 気象要素

令和8年度第1四半期の風配図



(注) 静穏とは、0.5m/s未満の風速の時である。

添 付 資 料

図 1	柏崎市街局の空間放射線量率	17
図 2	荒 浜 局の空間放射線量率	18
図 3	下 高 町 局の空間放射線量率	19
図 4	刈 羽 局の空間放射線量率	20
図 5	勝 山 局の空間放射線量率	21
図 6	宮 川 局の空間放射線量率	22
図 7	西 山 局の空間放射線量率	23
図 8	赤田町方局の空間放射線量率	24
図 9	土 合 局の空間放射線量率	25
図 10	発電所南局の空間放射線量率	26
図 11	発電所北局の空間放射線量率	27

図1 柏崎市街局の空間放射線量率

(測定期間: 令和8年4月1日～令和8年6月30日)

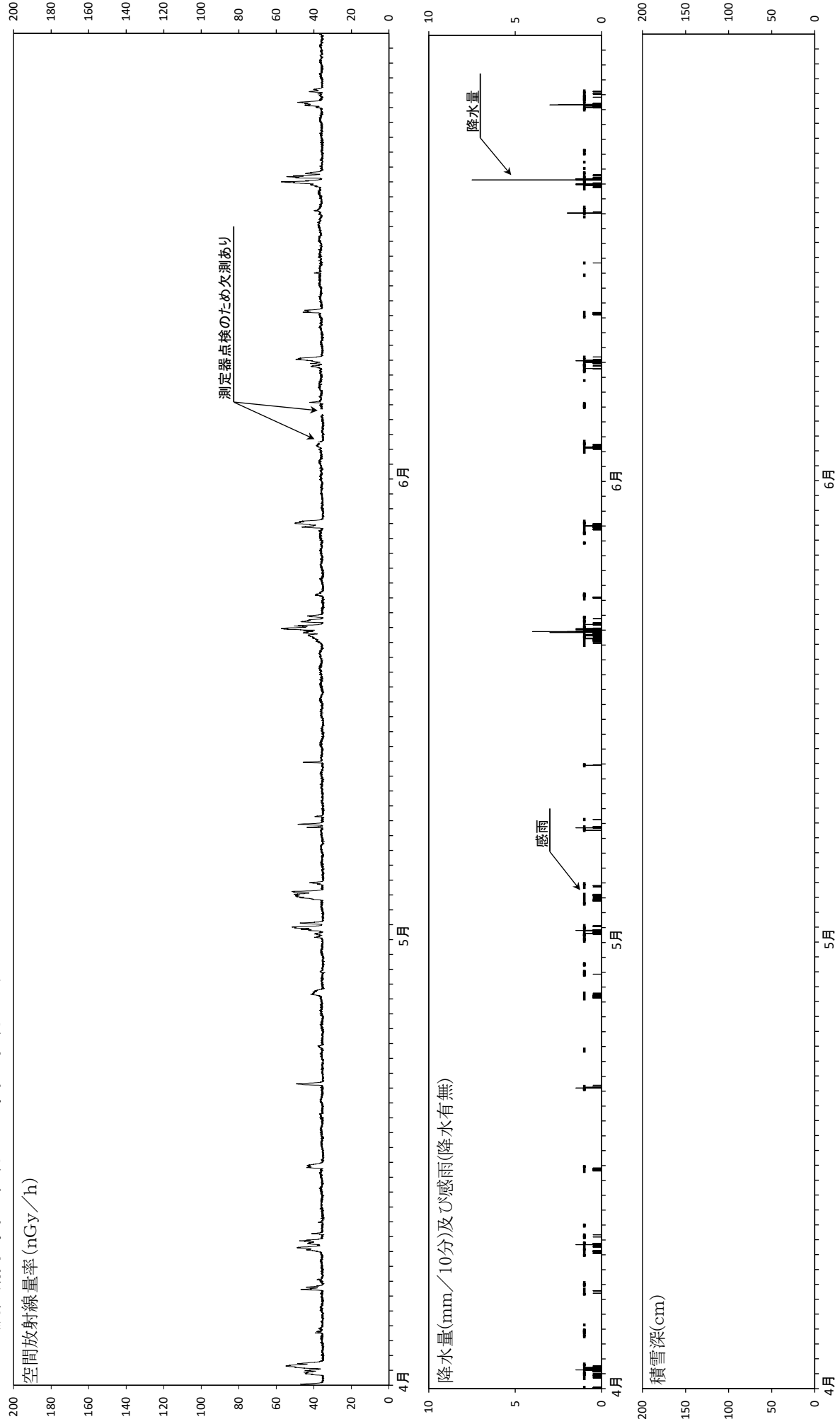


図2 荒浜局の空間放射線量率

(測定期間：令和8年4月1日～令和8年6月30日)

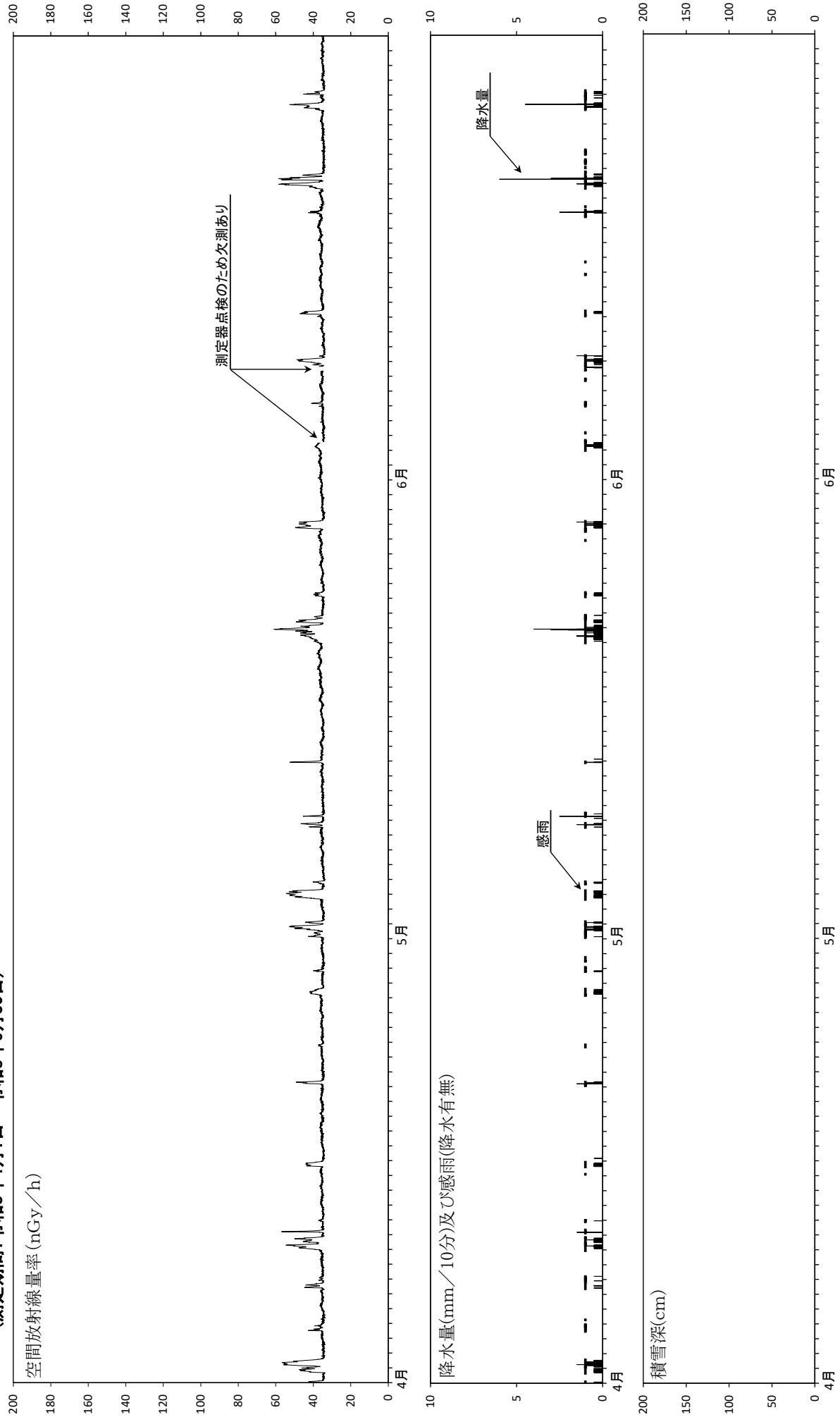


図3 下高町局の空間放射線量率

(測定期間: 令和8年4月1日～令和8年6月30日)

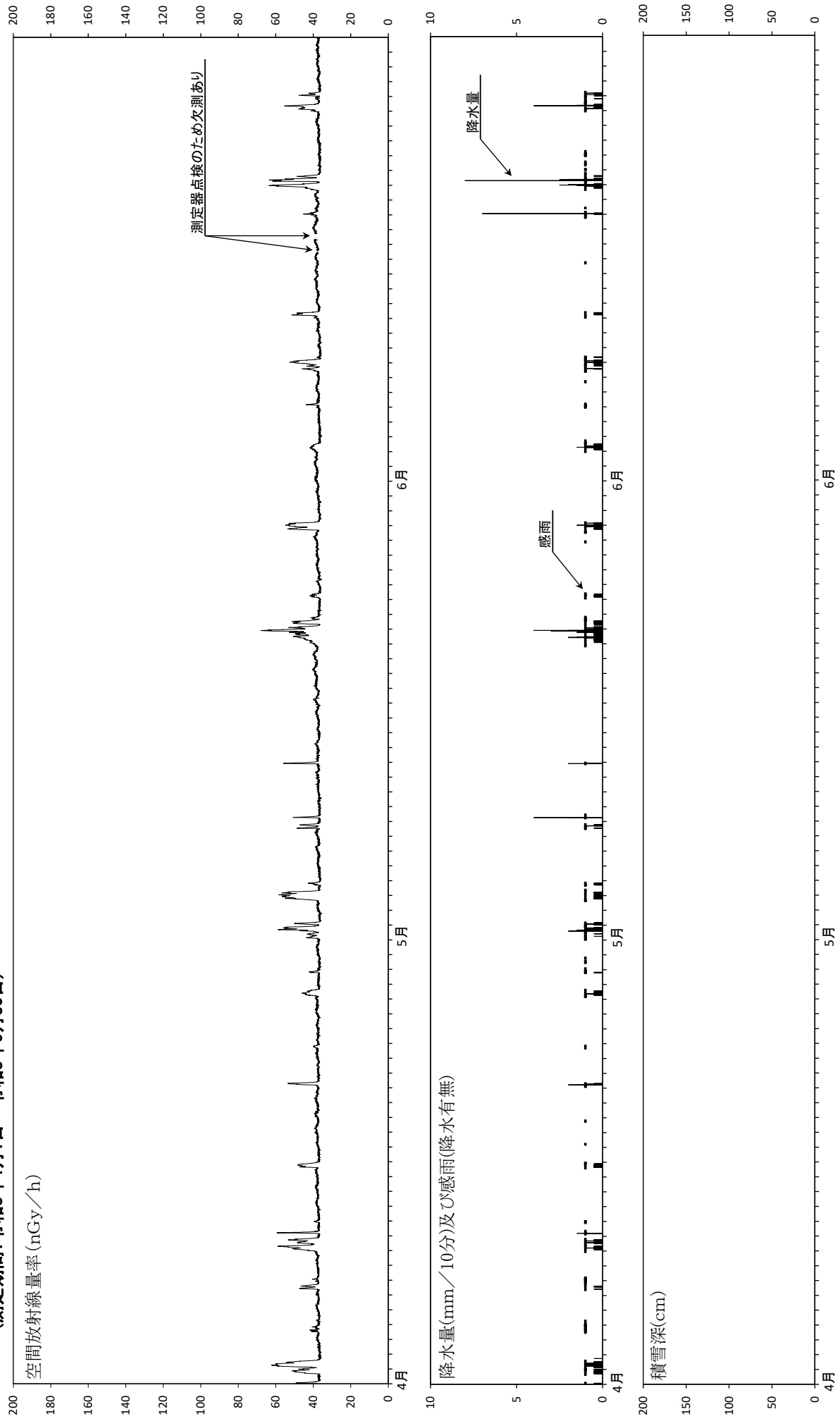


図4 刈羽局の空間放射線量率

(測定期間：令和8年4月1日～令和8年6月30日)

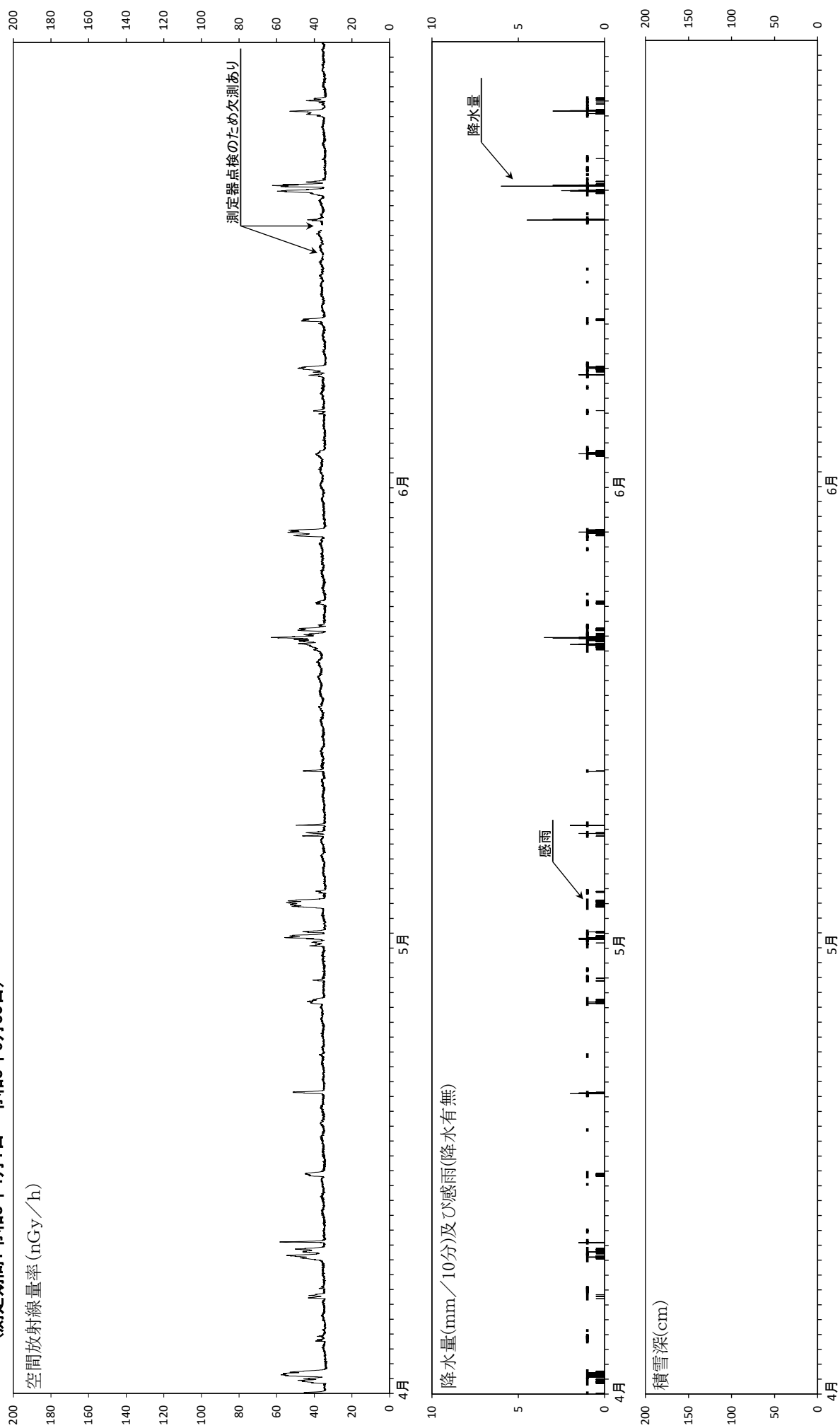


図5 勝山局の空間放射線量率

(測定期間: 令和8年4月1日～令和8年6月30日)

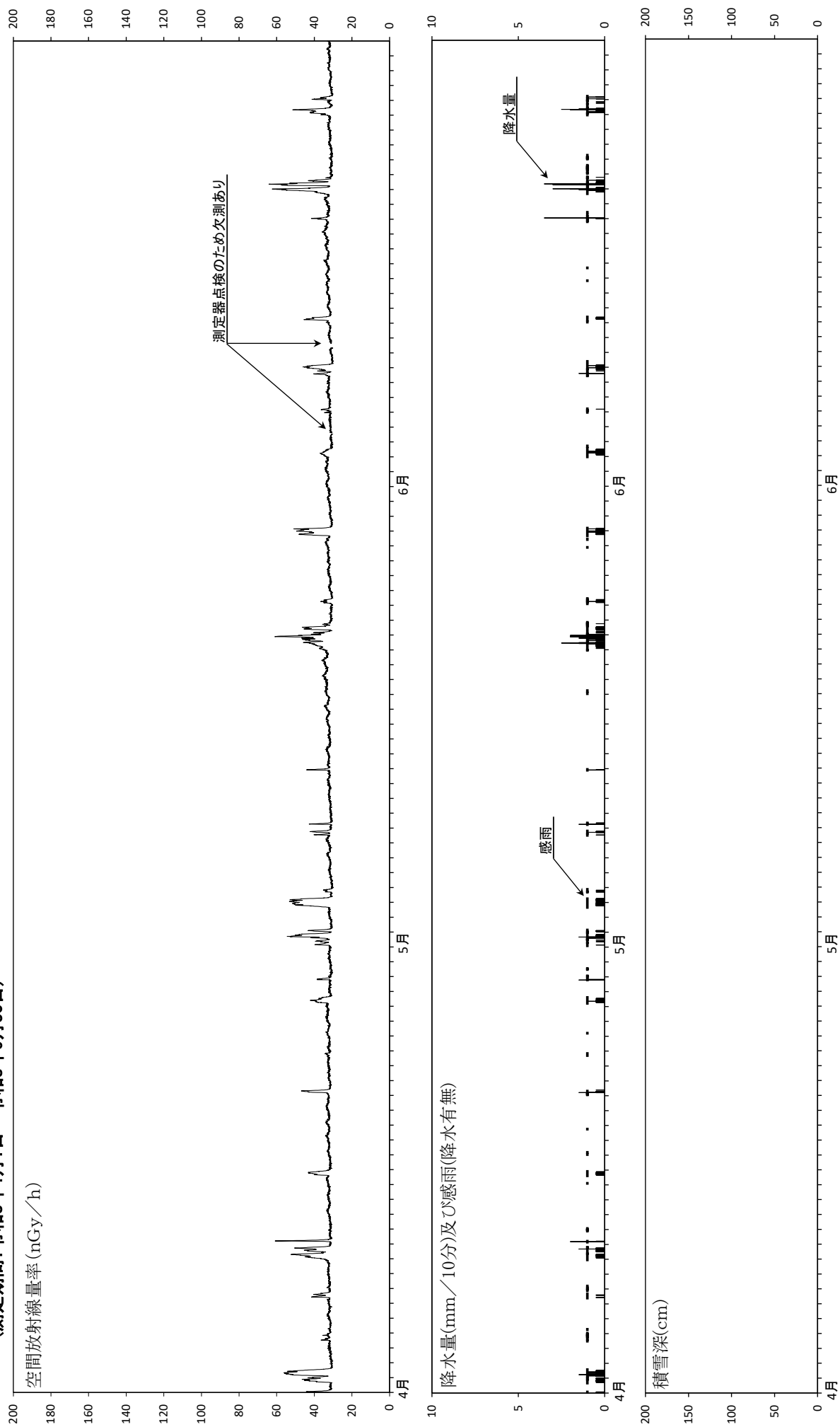


図6 宮川局の空間放射線量率

(測定期間: 令和8年4月1日～令和8年6月30日)

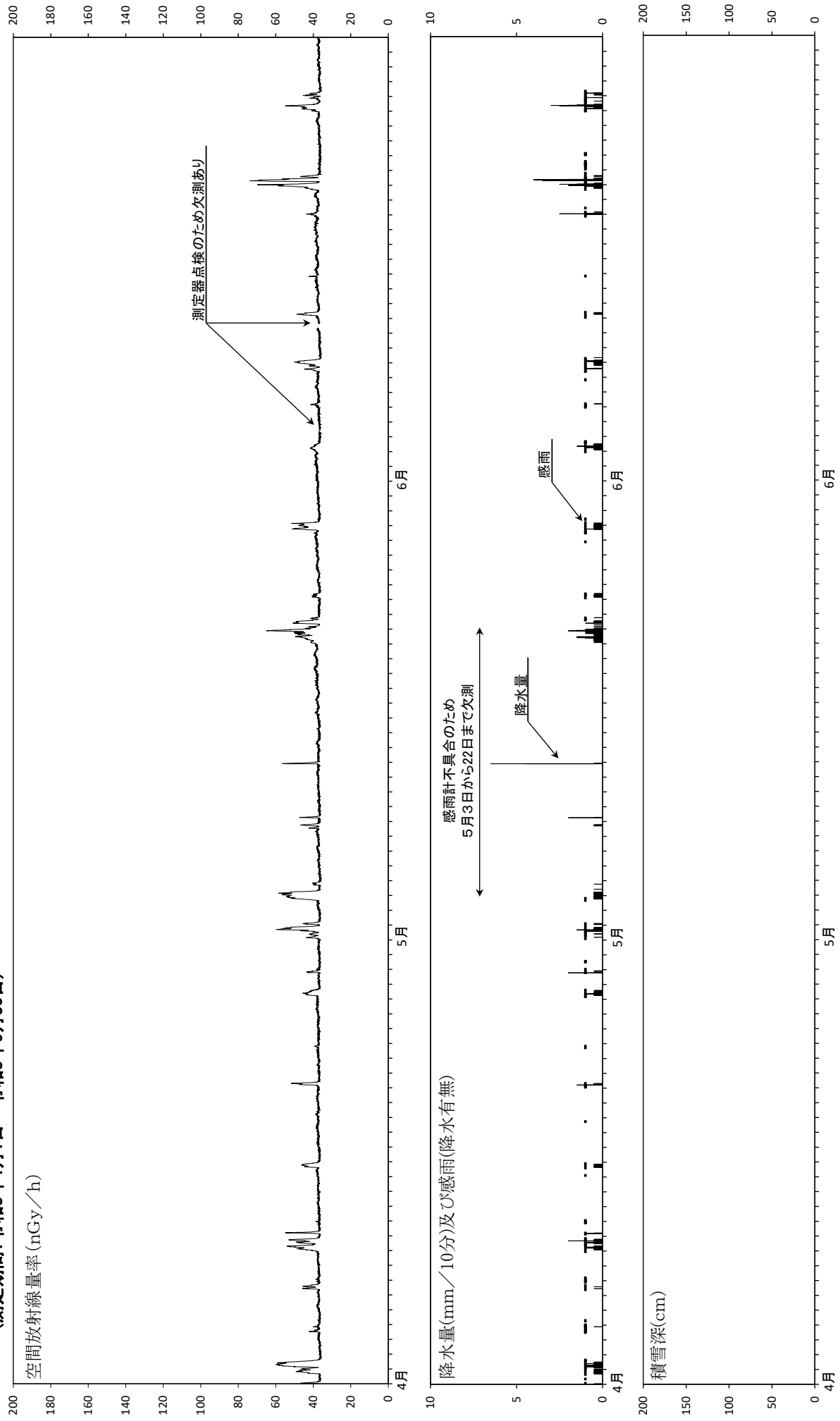


図7 西山局の空間放射線量率

(測定期間: 令和8年4月1日～令和8年6月30日)

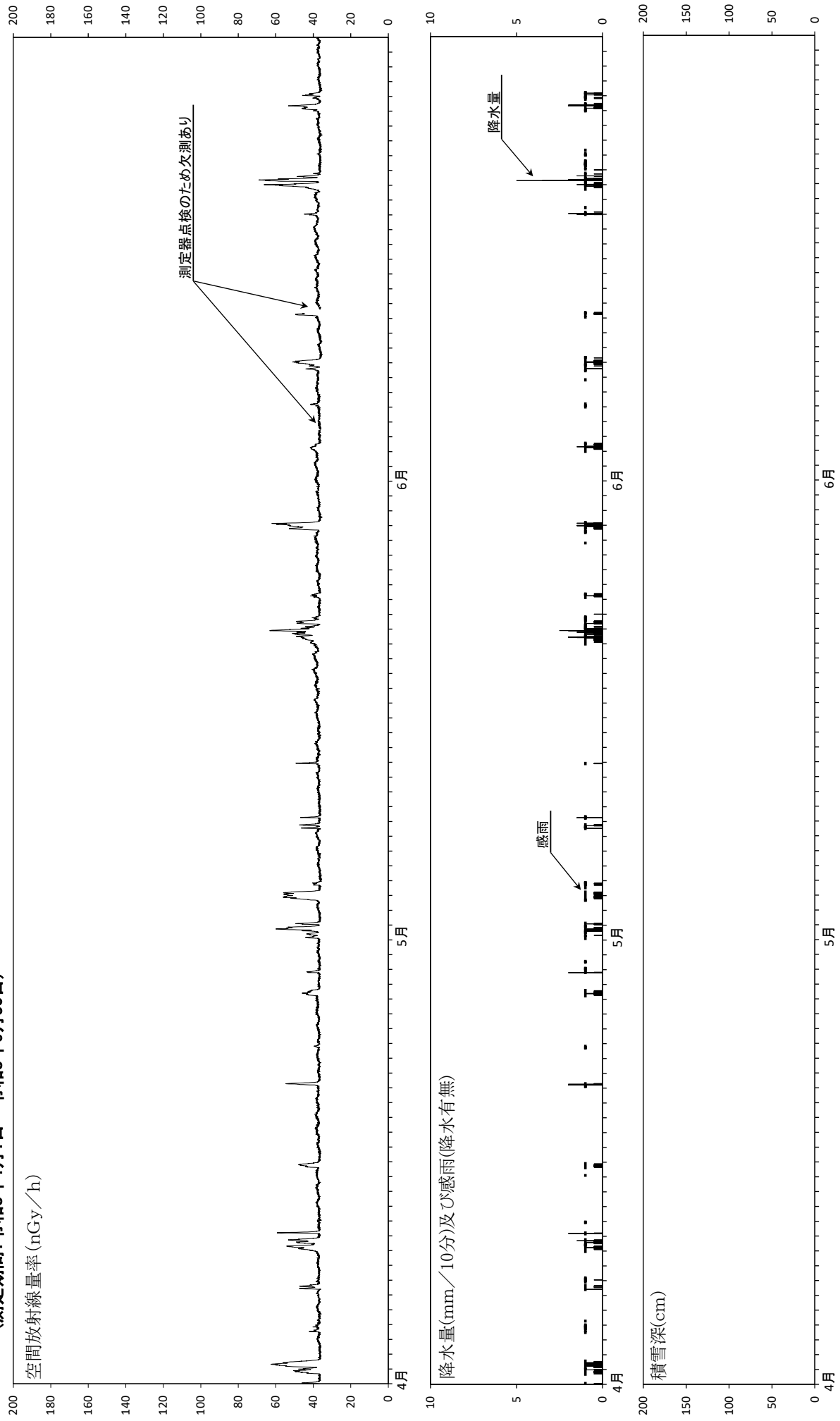


図8 赤田町方局の空間放射線量率

(測定期間: 令和8年4月1日～令和8年6月30日)

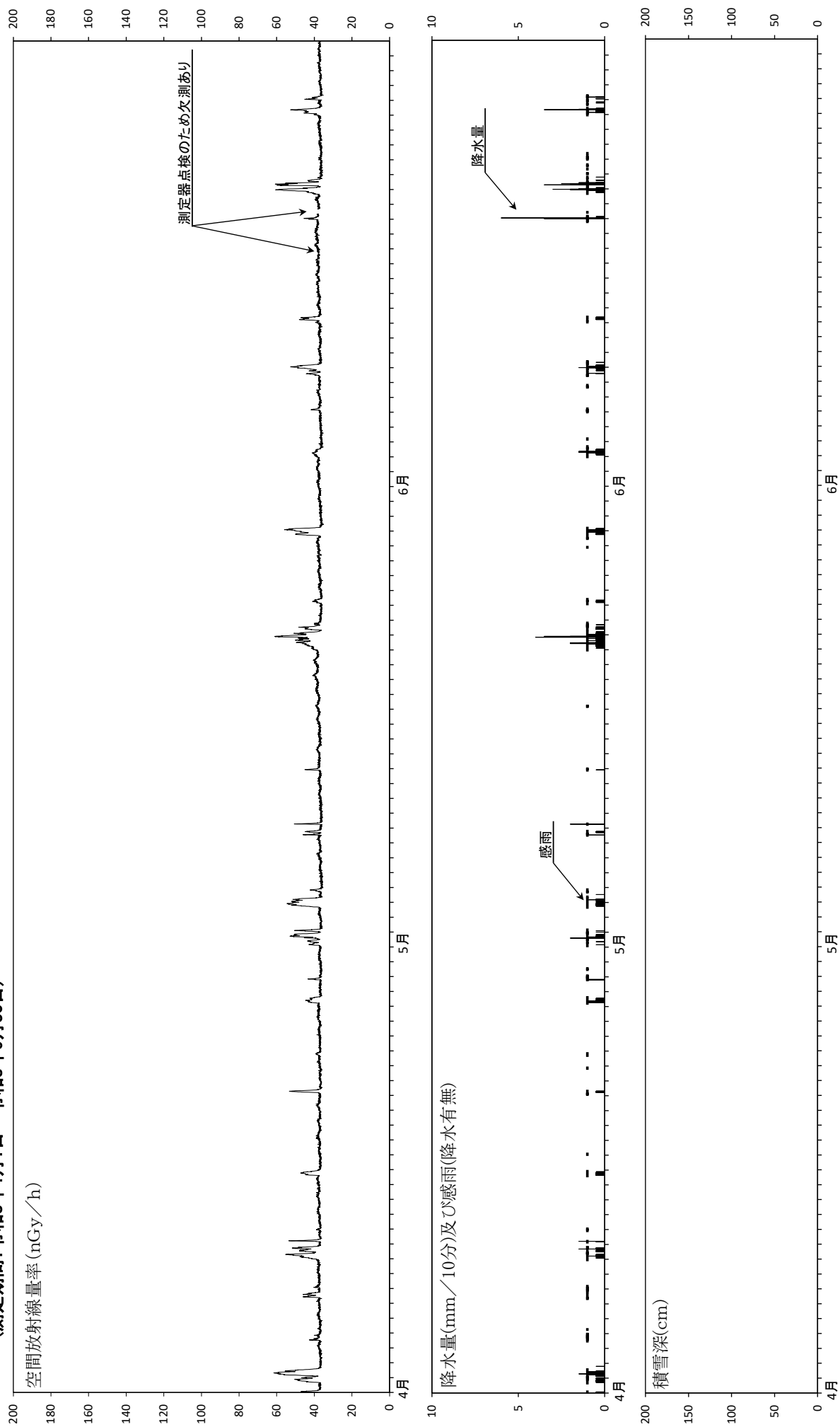


図9 土台局の空間放射線量率

(測定期間：令和8年4月1日～令和8年6月30日)

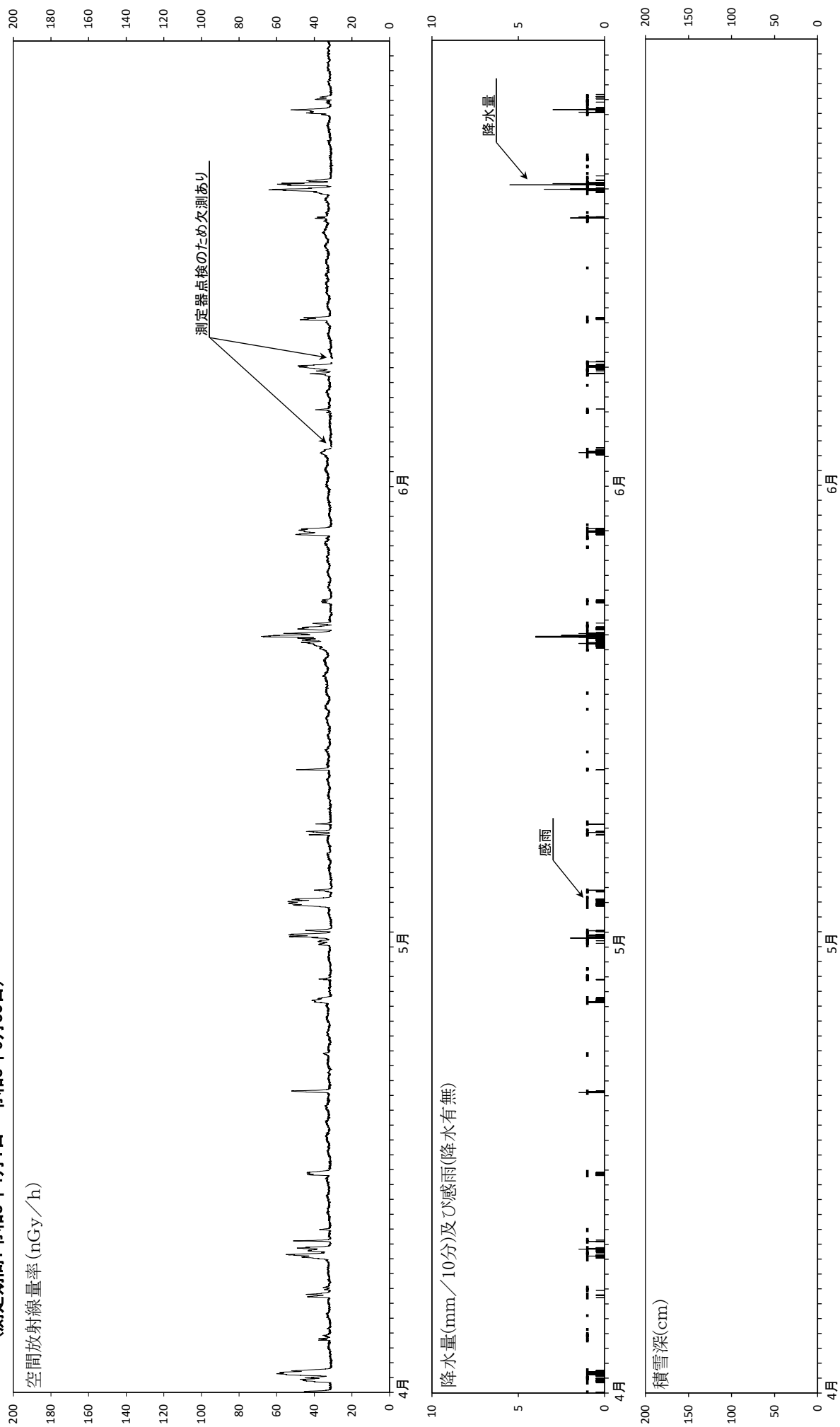


図10 発電所南局の空間放射線量率

(測定期間：令和8年4月1日～令和8年6月30日)

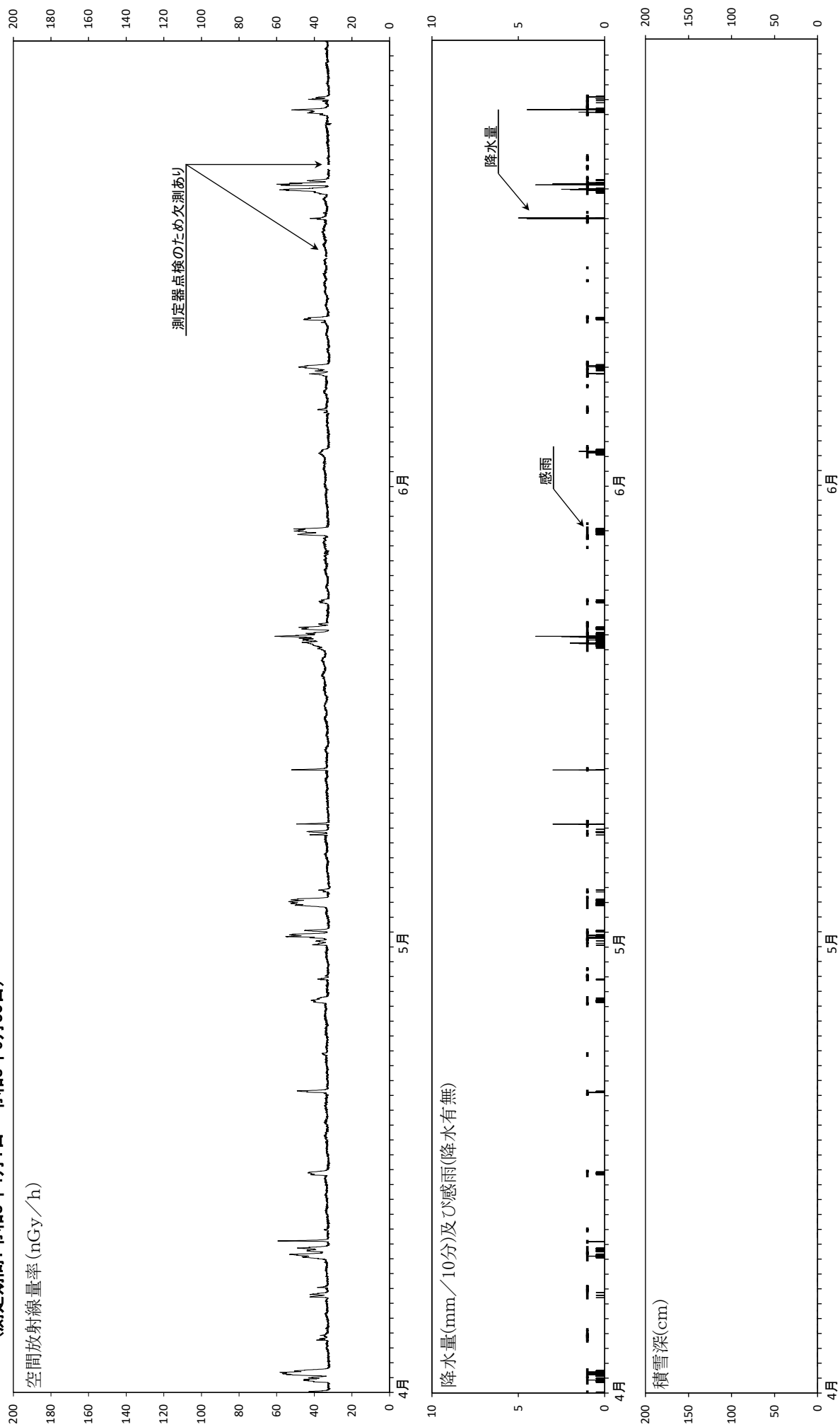
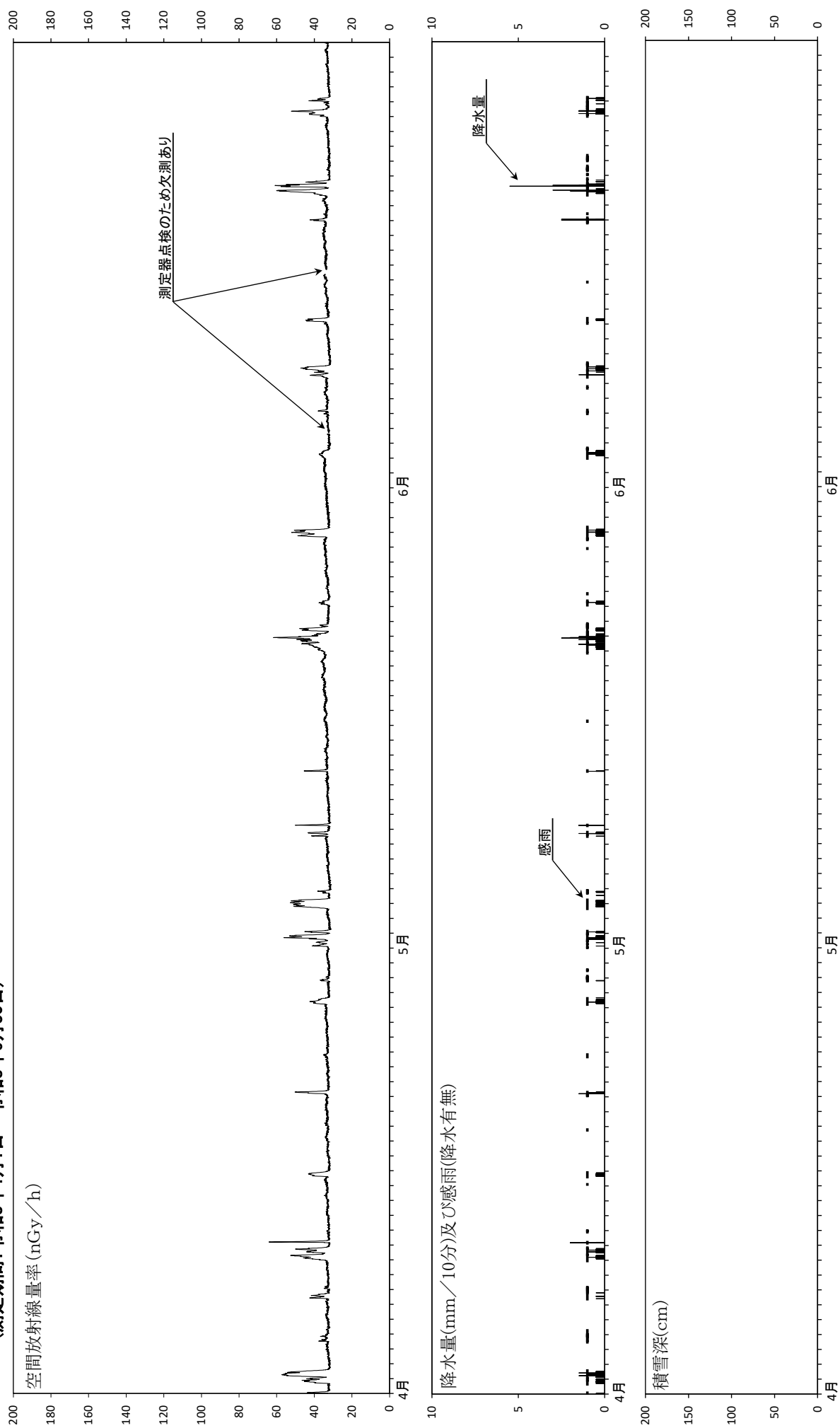


図11 発電所北局の空間放射線量率

(測定期間: 令和8年4月1日～令和8年6月30日)



事 象 報 告

事象報告 1	令和 8 年度第 1 四半期における空間放射線量率の上昇について	31
事象報告 2	令和 8 年度第 1 四半期の浮遊じんの全ベータ／全アルファ放射能比について	35

事象報告1 令和8年度第1四半期における空間放射線量率の上昇について

モニタリングポスト 11 局において空間放射線量率の連続測定を行った結果、6 月 21 日における宮川局の測定値が同一四半期の対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたことから、その要因を整理・検討した。

1 測定結果

6 月 20 日～21 日の空間放射線量率の測定結果を表に、全 11 局における空間放射線量率の時系列変化を図 1 に示す。

全 11 局の空間放射線量率が 6 月 20 日 21 時頃から上昇し、6 月 21 日 3 時頃に一度下降した後、6 時頃から再び上昇した。各上昇時における最高値は 6 月 20 日 23 時 30 分～6 月 21 日 1 時 10 分及び 6 月 21 日 7 時 20 分～8 時 50 分の間に出現した。

表 空間放射線量率の状況

（単位：nGy/h、10 分値）

測定地点 (モニタリング ポスト)	6 月 20 日 21 時～21 日 6 時 の最高値		6 月 21 日 6 時～18 時 の最高値		第 1 四半期における 対照期間(直近) (注 2) の最高値の範囲	発電所との 位置関係 (注 3)	
	最高値 (注 1)	時刻	最高値 (注 1)	時刻		方位	距離 (km)
柏崎市街局	57	6/21 00:20	55	6/21 08:40	60 ～ 69	南南西	7.8
荒浜局	58	6/20 23:30、 23:40	59	6/21 08:30	58 ～ 74	南南西	3.4
下高町局	64	6/20 23:40	64	6/21 08:30	66 ～ 77	南南東	2.5
刈羽局	60	6/20 23:30	62	6/21 08:40	61 ～ 71	東南東	2.1
勝山局	62	6/21 00:40、 00:50、01:00	64	6/21 08:40	60 ～ 66	東北東	3.1
宮川局	70	6/21 01:00	74	6/21 07:20	62 ～ 67	北北東	3.1
西山局	66	6/21 01:00、 01:10	69	6/21 08:40	61 ～ 71	東北東	6.6
赤田町方局	61	6/20 23:40	61	6/21 08:40、 08:50	59 ～ 71	東南東	4.3
土合局	64	6/20 23:40	60	6/21 08:40	65 ～ 84	南	4.2
発電所南局	59	6/20 23:40	60	6/21 08:30、 08:40	62 ～ 71	南	1.6
発電所北局	60	6/21 00:20、 00:40	61	6/21 08:40	64 ～ 69	東	1.1
全局の最高値の範囲	57 ～ 70		55 ～ 74		58 ～ 84		

(注) 1 超過した最高値は網掛けとした。

2 直 近：直近 5 カ年（令和 3～7 年度）

3 柏崎刈羽原子力発電所からみた方位、距離を示す。

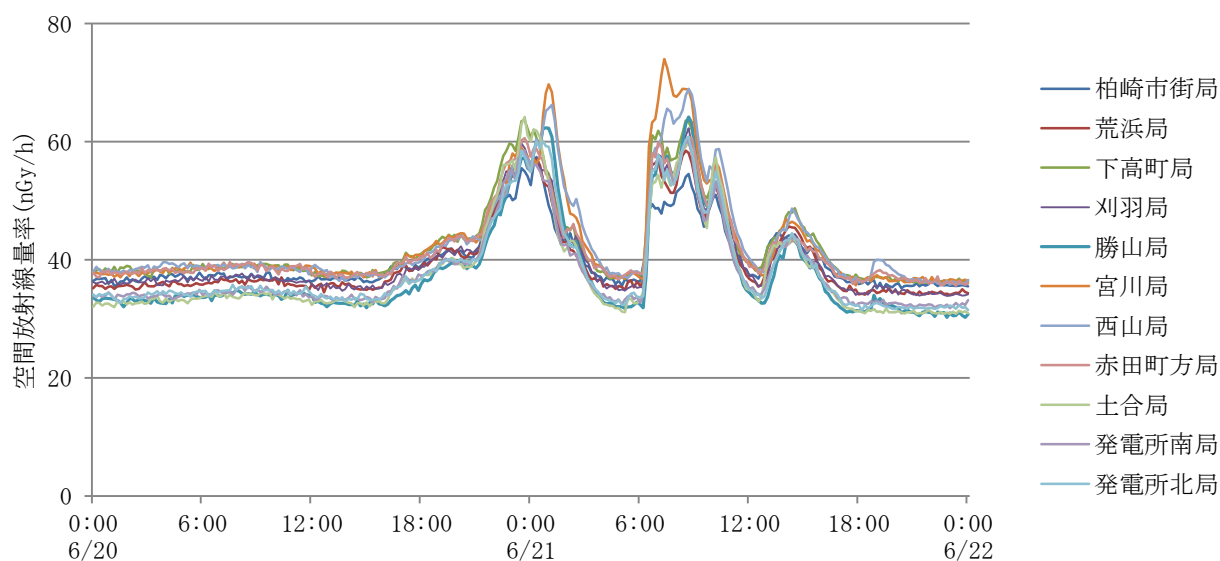


図1 全11局の空間放射線量率の時系列変化

2 超過要因の整理・検討

(1) 測定機器及び測定方法

原子力規制庁編「連続モニタによる環境γ線測定法」（平成29年改訂）に準拠し、測定及び校正などが適切に行われていることを確認している。

(2) 気象

ア 降雨等の影響

対照期間の測定値の範囲を超えた宮川局について、空間放射線量率及び降雨の時系列変化図を図2に示す。空間放射線量率の上昇が見られた時刻に降雨が確認された。

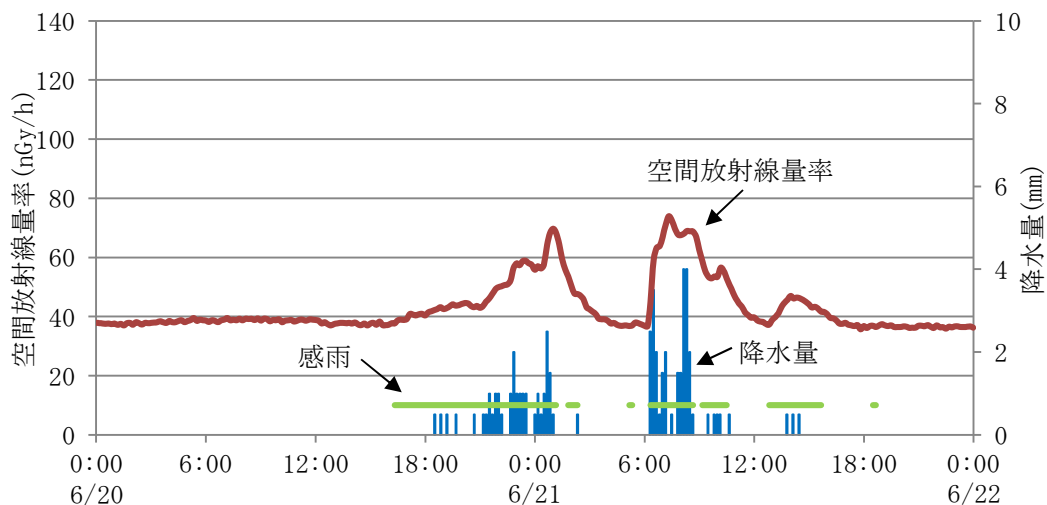


図2 宮川局の空間放射線量率、感雨及び降水量(10分値)の時系列変化

イ 雷の状況

落雷又は雷雲による制動放射線が空間放射線量率の測定値に影響することがある。雷観測データを確認したところ、6月21日における各上昇時の空間放射線量率の最高値が観測された時刻に宮川局付近に落雷等は確認されなかった。

(3) 人工放射性核種の確認

ア モニタリングポストのスペクトル解析

対照期間の測定値の範囲を超えた宮川局について、各上昇時の空間放射線量率の最高値が出現した時刻の NaI(Tl) シンチレーション検出器によるガンマ線スペクトルを図3-1及び図3-2に示す。天然放射性核種である鉛214、ビスマス214等のピークは検出されたが、人工放射性核種のピークは検出されなかった。

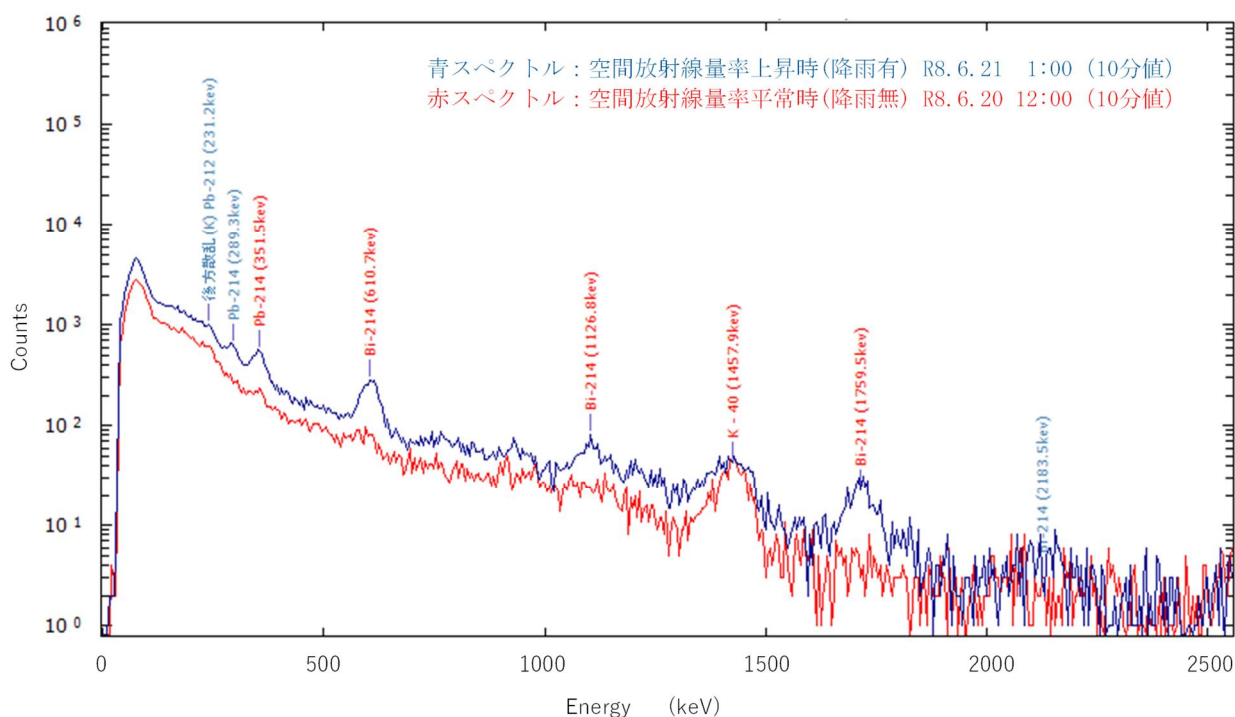


図3-1 6月21日1時00分の宮川局のNaI(Tl)シンチレーション検出器によるガンマ線スペクトル

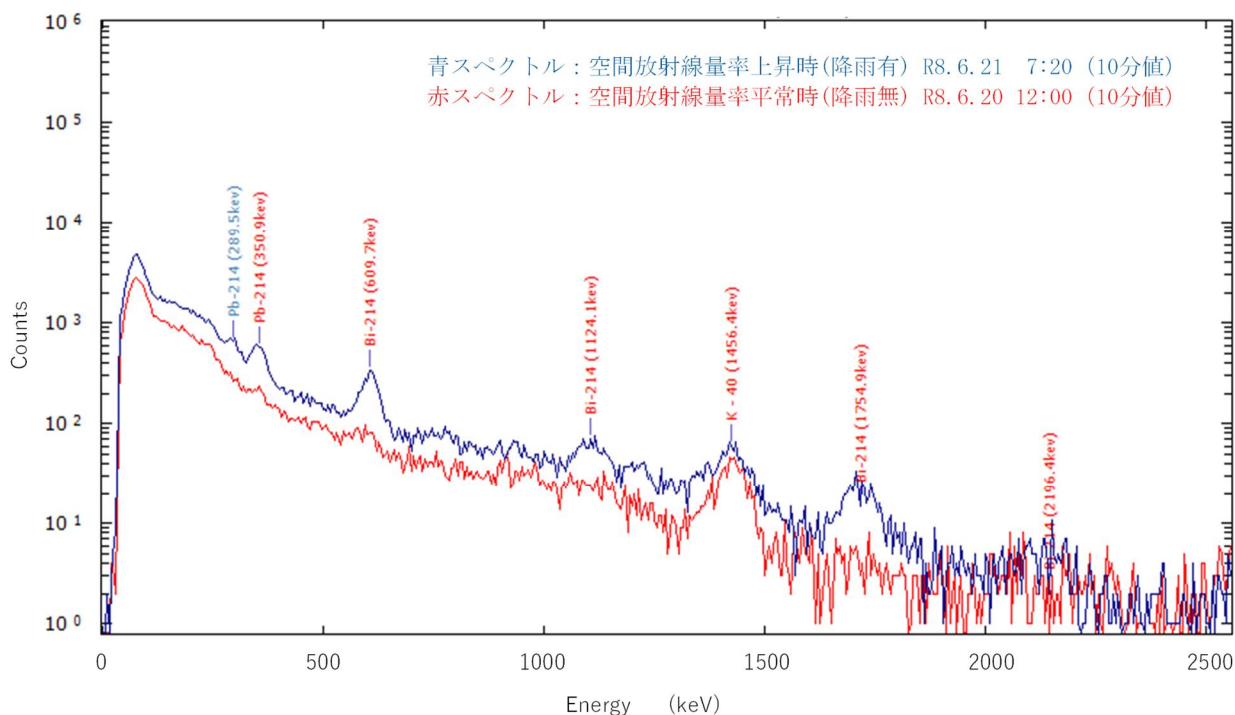


図3-2 6月21日7時20分の宮川局のNaI(Tl)シンチレーション検出器による
ガンマ線スペクトル

イ 環境試料中の人工放射性核種の検出状況

第1四半期に採取した一部の環境試料から、過去の核実験等の影響と考えられるセシウム137が検出されたが、原子力施設由来と考えられるコバルト60、マンガン54等は検出されなかった。

(4) その他外部要因

ア 周辺環境の変化

当該事象の原因となる周辺環境の変化は確認されなかった。

イ 非破壊検査等

宮川局における各上昇時の空間放射線量率の最高値が出現した時刻のNaI(Tl)シンチレーション検出器によるガンマ線スペクトルでは、非破壊検査及びX線検診の影響は見られなかった。

(5) 原子力施設の運転状況等

第1四半期において、柏崎刈羽原子力発電所における6号機の原子炉が稼働していた。また、柏崎刈羽原子力発電所の排気筒モニタの測定値に有意な変動は見られなかった。

3 まとめ

宮川局の空間放射線量率が同一四半期の対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたが、当該時刻に降雨が確認されたこと、NaI(Tl)シンチレーション検出器によるガンマ線スペクトルからは人工放射性核種のピークは検出されなかったこと等から、超過要因は柏崎刈羽原子力発電所の影響ではなく、降雨とともに大気中に含まれる天然放射性核種が地表に降下したため、一時的に高い値を示したものと考えられた。

事象報告2 令和8年度第1四半期の浮遊じんの全ベータ/全アルファ放射能比について

柏崎市街局、刈羽局及び西山局においてダストモニタによる浮遊じんの全ベータ放射能（以下「全 β 」という。）、全ベータ/全アルファ放射能比（以下「 β/α 比」という。）の連続測定を行った結果、6月22日及び27日における西山局の集じん位置における β/α 比が同一四半期の対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたことから、その要因を整理・検討した。

1 測定結果

対照期間の測定値の範囲を超えた β/α 比の測定値等を表1に示す。当該事象は第1四半期において2回発生した。

表1 令和8年度第1四半期における対照期間の測定値を超過した集じん位置における β/α 比

測定地点	測定日時	β/α 比	対照期間における β/α 比の最高値	捕集ろ紙の機器分析結果 (人工放射性核種の検出有無)
			直近 ^(注1)	1か月毎
西山局	6/22 6:10	3.7	3.6	6月分：検出なし
	6/27 12:10	3.7		

(注) 1 直近：直近5カ年（令和3～7年度）の第1四半期

2 β/α 比は平成20年4月から測定を開始した。

2 超過要因の整理・検討

(1) 測定機器及び測定方法

原子力規制庁編「大気中放射性物質測定法」（令和4年制定）に準拠し、測定及び校正などが適切に行われていることを確認している。

(2) 測定値の時系列変化

β/α 比が対照期間の測定値の範囲を超えた西山局について、全アルファ放射能（以下「全 α 」という。）、全 β 及び β/α 比の時系列変化を図1-1a、図2-1a、図1-1b及び図2-1bに示す。

図1-1b及び図2-1bについて、全 α 、全 β ともに集じん終了直後から漸減し、通常のモニタリング結果や原子力規制庁編「大気中放射性物質測定法」（令和4年制定）解説E 図E-2に示す天然放射性核種の減衰パターン（見かけの半減期約30分）と一致した。このことから、当該時間帯の全 α 、全 β は天然放射性核種に由来するものと推定された。

図1-1a及び図2-1aについて、対照期間の範囲を超えた測定値は集じん開始直後に出現した。集じん開始初期は捕集された浮遊じんが少なく、全 α 及び全 β が低いことにより β/α 比の変動が大きい。また、集じん開始初期はろ紙に捕集された浮遊じんが繊維の間に入り込み、アルファ線がろ紙の繊維で遮蔽され、全 α が全 β と比較して極端に低くなる等の可能性が考えられる。なお、これまでの調査においても、集じん開始初期に β/α 比の高値が発生している。

(3) 全 β の確認

β/α 比が最高値を示した試料の集じん終了後の全 β は、表2に示すとおり、対照期間の測定値の範囲内であった。

表2 令和8年度第1四半期における β/α 比が対照期間の測定値を超過した試料の集じん終了後の全 β

測定地点	集じん日時	集じん終了後の全 β (Bq/m ³)		対照期間における集じん終了後の全 β の最高値 (Bq/m ³)	
				直近 ^(注1)	事前 ^(注2,3)
西山局	6/22 6～12時	直後	0.10	6.0	
		5時間後	*	0.31	
	6/27 12～18時	直後	0.23	6.0	
		5時間後	*	0.31	

- (注) 1 直近：直近5カ年（令和3～7年度）の第1四半期
 2 事前：事前調査期間（昭和58年10月～昭和59年12月）
 3 西山局は平成14年度から測定を開始した。
 4 検出下限値未満は、*とした。

(4) 人工放射性核種等の確認

ア 機器分析結果

西山局における β/α 比の最高値が出現した月の捕集ろ紙をまとめて分析した結果、人工放射性核種は検出されなかった。

イ 常時監視結果

空間放射線量率及び降雨の時系列変化を図1－2及び図2－2に示す。6月22日及び27日における当該時間帯において、空間放射線量率の上昇、降雨は確認されなかった。

(5) その他外部要因

当該事象の原因となる周辺環境の変化は確認されなかった。

(6) 原子力施設の運転状況等

6月22日及び27日において、柏崎刈羽原子力発電所における6号機の原子炉が稼働していた。また、6月22日及び27日における柏崎刈羽原子力発電所の排気筒モニタの測定値の時系列変化を図1－3及び図2－3に示す。当該時間帯において計数率の上昇は見られなかった。

3 まとめ

西山局の集じん位置における β/α 比が同一四半期の対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたが、最高値が出現した月をはじめ、全ての捕集ろ紙の機器分析結果から人工放射性核種のピークは検出されなかったこと、柏崎刈羽原子力発電所の排気筒モニタの測定値に当該時間帯において計

数率の上昇は見られなかったこと、最高値が出現した時間帯における全 α 及び全 β の減衰パターンが天然放射性核種の減衰パターンと一致したこと等から、超過要因は柏崎刈羽原子力発電所の影響ではなく、集じん初期における全 α 及び全 β の低値に伴う変動が原因と考えられる。

(参考 1) 6 月 22 日 西山局の浮遊じんの放射能等の時系列変化

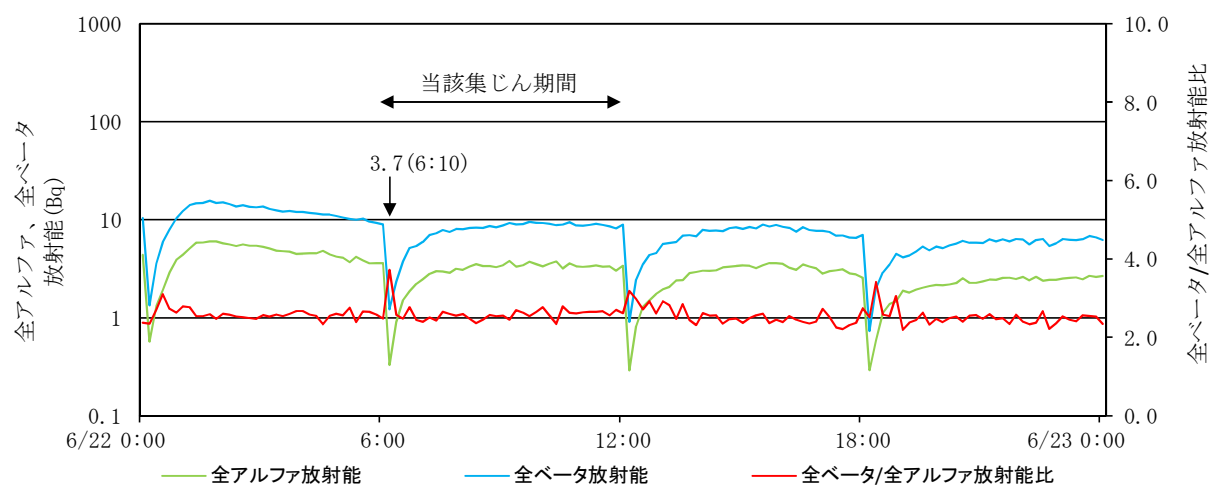


図 1 - 1 a 西山局の集じん中の浮遊じんの放射能(10 分値)の時系列変化

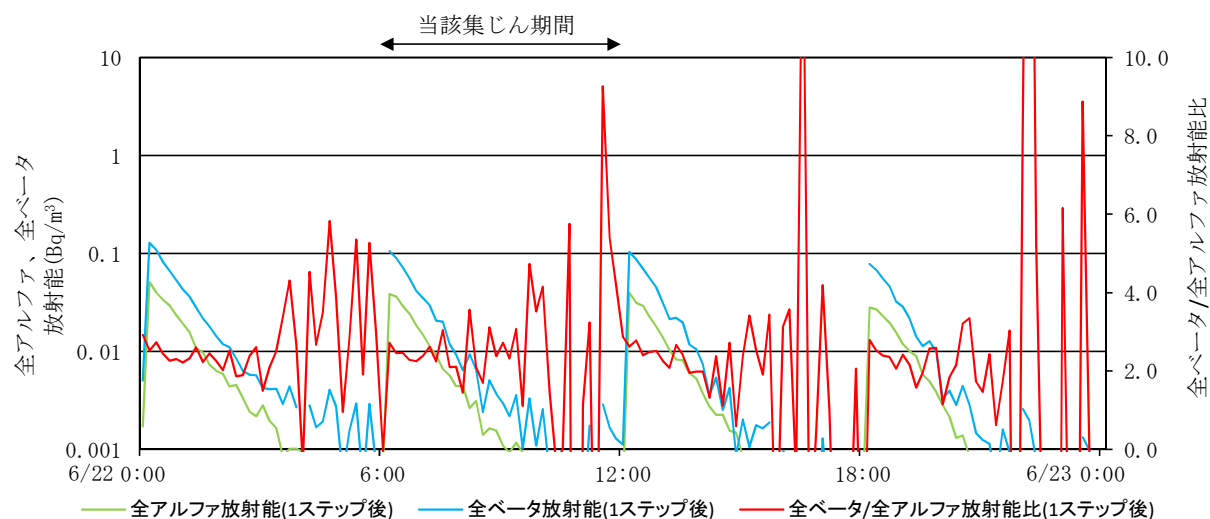


図 1 - 1 b 西山局の集じん終了後の浮遊じんの放射能(10 分値)の時系列変化

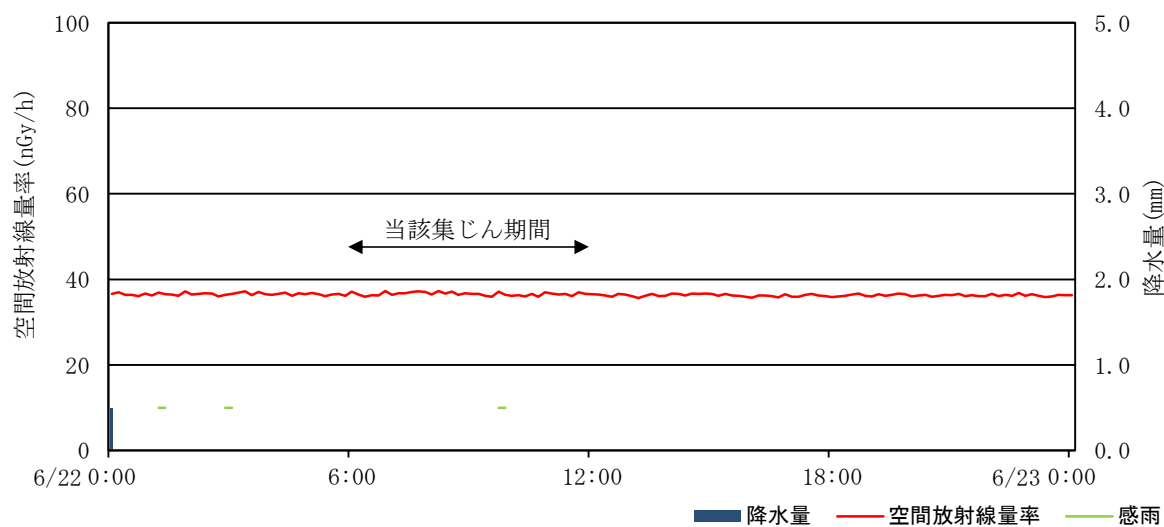


図 1 - 2 西山局の空間放射線量率、感雨及び降水量(10 分値)の時系列変化

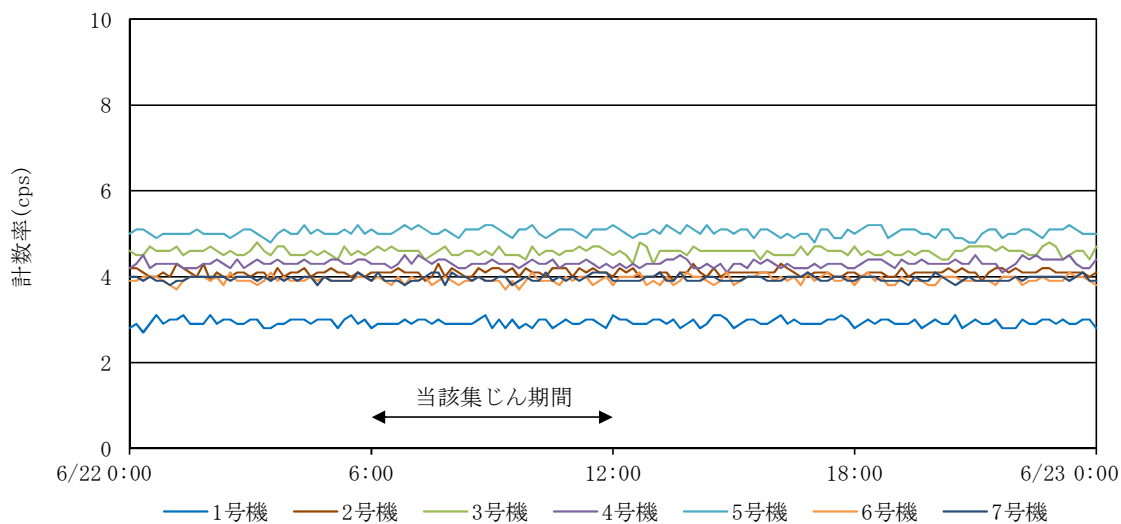


図 1 - 3 柏崎刈羽原子力発電所の排気筒モニタ測定値の時系列変化

(参考 2) 6 月 27 日 西山局の浮遊じんの放射能等の時系列変化

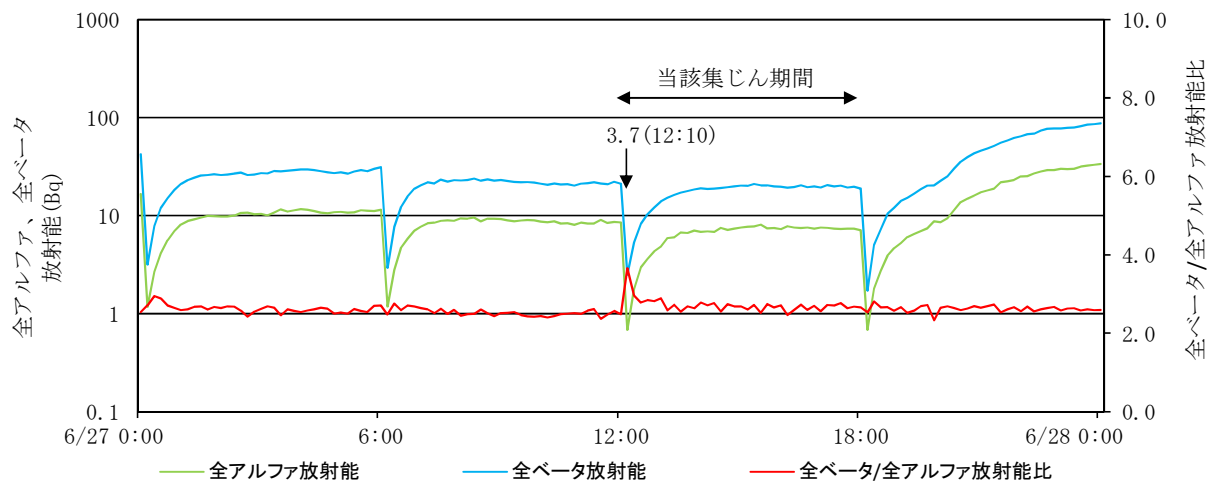


図 2 - 1 a 西山局の集じん中の浮遊じんの放射能(10 分値)の時系列変化

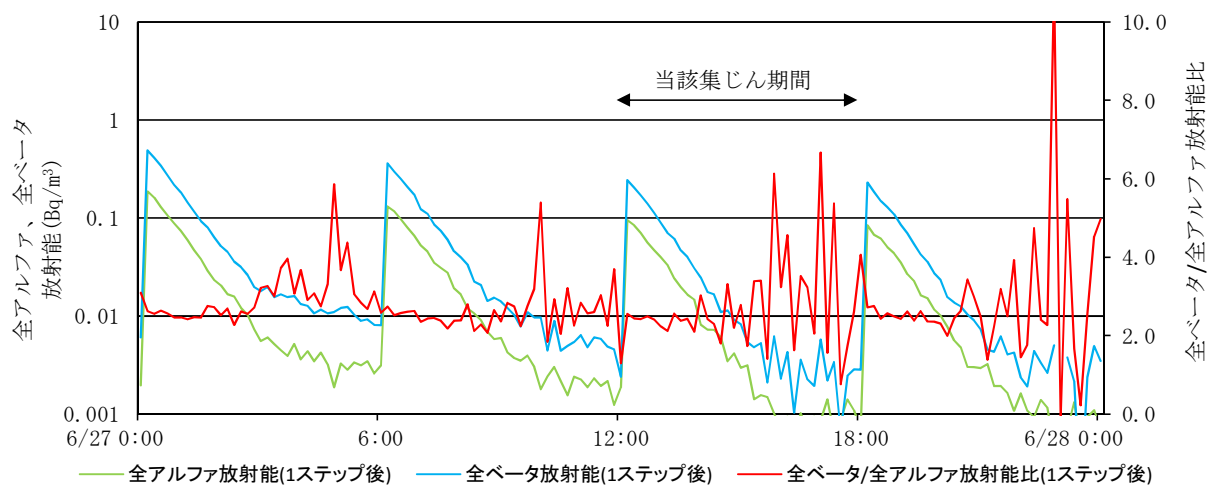


図 2 - 1 b 西山局の集じん終了後の浮遊じんの放射能(10 分値)の時系列変化

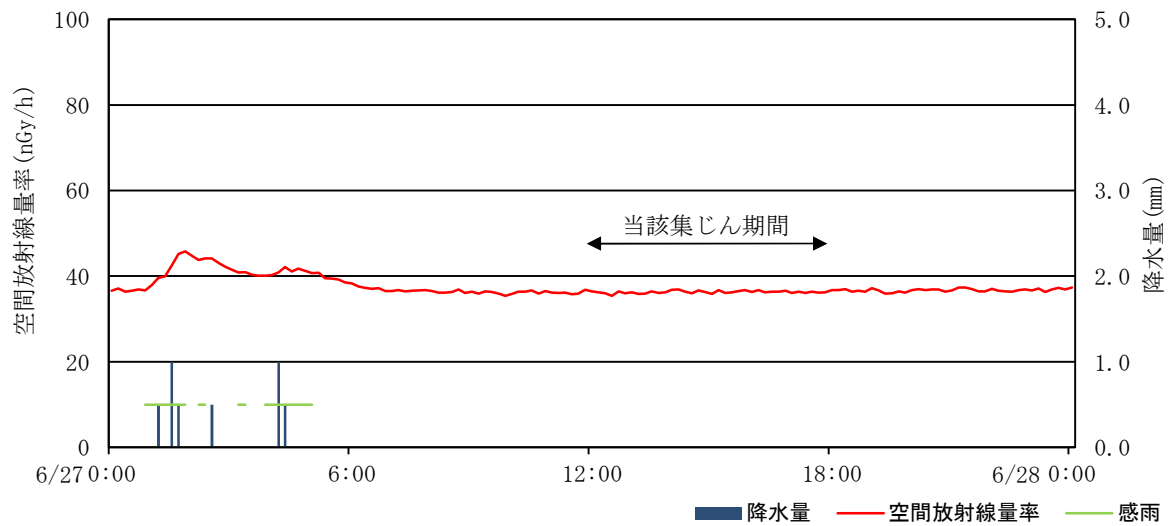


図 2 - 2 西山局の空間放射線量率、感雨及び降水量(10 分値)の時系列変化

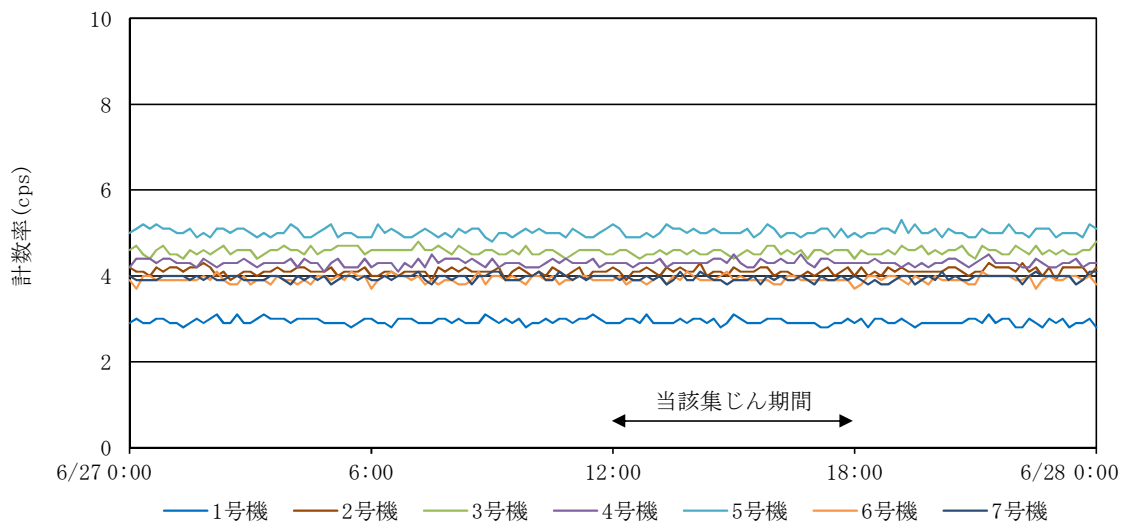


図 2 - 3 柏崎刈羽原子力発電所の排気筒モニタ測定値の時系列変化

令和8年度

**柏崎刈羽原子力発電所周辺
環境放射線監視調査結果速報**

第1四半期（4月～6月）

令和8年8月

東京電力ホールディングス株式会社

目 次

I	監視調査結果の概要	1
II	監視調査の実施機関	3
III	監視調査の内容	3
1	監視調査項目	3
2	監視調査地点	4
(1)	空間放射線調査地点	4
(2)	環境試料採取地点	5
3	測定方法及び測定装置	6
4	表示単位及び測定値の取扱い方法	7
(1)	空間放射線	7
(2)	環境試料中の放射能	7
IV	監視調査結果	8
1	空間放射線	8
(1)	空間放射線量率	8
(2)	積算線量	9
2	環境試料中の放射能	10
(1)	浮遊じんの全ベータ放射能	10
(2)	核種分析結果(機器分析)	11
(3)	核種分析結果(ストロンチウム 90 の放射化学分析)	12
(4)	核種分析結果(トリチウムの放射化学分析)	12
V	参考	13
	海水放射能モニタによる測定	13
	添付資料	15

単 位 の 略 字

単 位	単位の略字
ナノグレイ毎時	nGy/h
ミリグレイ毎 91 日	mGy/91 日
ベクレル毎立方メートル	Bq/m ³
ベクレル毎リットル	Bq/L
ベクレル毎キログラム乾	Bq/kg 乾
ベクレル毎キログラム生	Bq/kg 生

東京電力ホールディングス株式会社は、柏崎刈羽原子力発電所周辺の環境放射線監視調査を「令和8年度 柏崎刈羽原子力発電所周辺環境放射線監視調査年度計画」に基づき実施しているが、令和8年4月から6月までの第1四半期における監視調査結果をとりまとめたので報告する。

令和8年度の測定結果は、次表に示す2つの対照期間の測定値の範囲と比較して、3つに区分した。ただし、空間放射線については、事前調査期間は対照期間に含めず、対照期間の測定値との比較にあたっては、計数誤差を考慮せず、〔超える〕又は〔範囲内〕に区分した。

対照期間	・直 近：直近5カ年（令和3～7年度） ・事 前：事前調査期間（調査開始～昭和59年12月）
区分	・超える：測定結果の計数誤差を加味しても対照期間の測定値の上限値を超える場合 ・同程度：測定結果が対照期間の測定値の上限値を超えるが、計数誤差を加味すると対照期間の測定値の上限値と同程度となる場合 ・範囲内：測定結果が対照期間の測定値の上限値を超えない場合

なお、四半期報告では、自然放射線の季節変動があることを考慮した上で測定結果を判断するために、空間放射線量率、積算線量及び浮遊じんの放射能の測定値を対照期間（直近）の同一四半期の測定値とも比較した。

I 監視調査結果の概要

令和8年4月から6月までの第1四半期に実施した柏崎刈羽原子力発電所周辺の環境放射線監視調査結果の概要は以下のとおりである。

1 空間放射線

(1) 空間放射線量率〈詳細は p8 参照〉

9局のモニタリングポストにおける測定結果について、平均値の範囲は31～39 nGy/h、1時間値の最高値の範囲は58～66 nGy/h、10分値の最高値の範囲は62～70 nGy/hであり、各地点の測定結果は、対照期間の測定値の範囲内であった。

各地点の最高値はすべて降水に伴い出現した。

(2) 積算線量〈詳細は p9 参照〉

18地点における測定結果について、測定値の範囲は0.11～0.13 mGy/91日であり、各地点の測定結果は、対照期間の測定値の範囲内であった。

2 環境試料中の放射能

(1) 浮遊じんの全ベータ放射能〈詳細は p10 参照〉

MP-1、MP-5及びMP-8の3地点において6時間集じんの測定を行った。

集じん終了直後の測定結果について、平均値は1.1 Bq/m³、最高値の範囲は3.3～3.5 Bq/m³で

あり、各地点の測定結果は、対照期間の測定値の範囲内であった。

また、集じん終了5時間後の測定結果について、平均値は 0.035 Bq/m^3 、最高値の範囲は $0.13 \sim 0.15 \text{ Bq/m}^3$ であり、対照期間の測定値の範囲内であった。

(2) 核種分析結果（機器分析）〈詳細は p11 参照〉

浮遊じん、陸水（飲料水）、土壌（陸土）、指標生物（松葉）、海水、海底土、海産物（マダイ、ワカメ）及び指標生物（ホンダワラ類）の試料について測定を行った。

その結果、従来から検出されているセシウム 137 が土壌（陸土）、指標生物（松葉）及び海産物（マダイ）から検出されたが、検出された値は対照期間の測定値の範囲内であった。

(3) 核種分析結果（ストロンチウム 90 の放射化学分析）〈詳細は p12 参照〉

土壌（陸土）、海産物（マダイ）及び指標生物（ホンダワラ類）の試料について、ストロンチウム 90 の測定を行った。

その結果、土壌（陸土）、海産物（マダイ）及び指標生物（ホンダワラ類）から同核種が検出されたが、検出された値は対照期間の測定値の範囲内であった。

(4) 核種分析結果（トリチウムの放射化学分析）〈詳細は p12 参照〉

陸水（飲料水）及び海水の試料について、トリチウムの測定を行った。

その結果、陸水（飲料水）から同核種が検出されたが、検出された値は対照期間（直近）の測定値と同程度であった。

Ⅱ 監視調査の実施機関

東京電力ホールディングス株式会社 柏崎刈羽原子力発電所

Ⅲ 監視調査の内容

1 監視調査項目

(1) 空間放射線

ア 空間放射線量率

イ 積算線量

(2) 環境試料中の放射能

ア 浮遊じんの全ベータ放射能

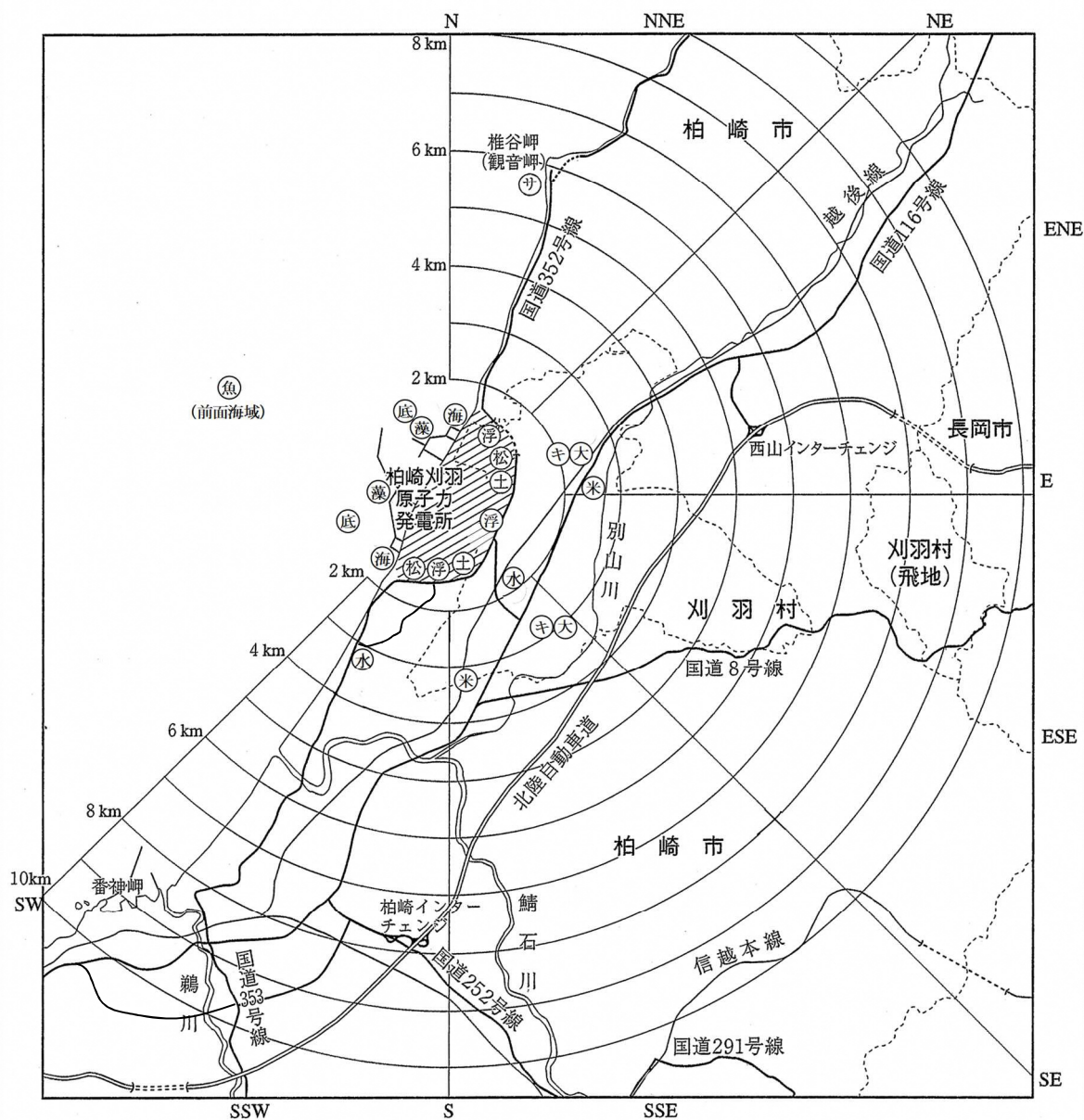
イ 浮遊じん、陸水（飲料水）、土壌（陸土）、指標生物（松葉）、海水、海底土、海産物（マダライ、ワカメ）及び指標生物（ホンダワラ類）の核種分析

(1) 空間放射線調査地点



▲ : 蛍光ガラス線量計ポスト

(2) 環境試料採取地点



記号	環境試料名	採取地点	記号	環境試料名	採取地点
①浮	浮遊じん	MP-1、MP-5、MP-8	①松	松葉	発電所北側 発電所南側
①水	飲料水	刈羽村刈羽 柏崎市荒浜	①海	海水	放水口(南)付近 放水口(北)付近
①土	陸土	MP-2付近 MP-8付近	①底	海底土	放水口(南)付近 放水口(北)付近
①米	精米	刈羽村勝山 刈羽村高町	①魚	魚類	発電所前面海域
①キ	キャベツ	刈羽村勝山 刈羽村高町	①サ	サザエ	柏崎市椎谷岬 (観音岬)
①大	大根	刈羽村勝山 刈羽村高町	①藻	ワカメ、 ホンダワラ類	放水口(南)付近 放水口(北)付近

3 測定方法及び測定装置

監視調査項目		測定方法	測定装置
空間放射線	空間放射線量率	原子力規制庁編「連続モニタによる環境γ線測定法」(平成29年改訂)に準拠 ・環境放射線監視テレメータシステムでの1時間計測繰り返しによる年間連続測定	・2"φ×2" NaI(Tl)シンチレーション検出器
	積算線量	文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」(平成14年制定)に準拠 ・3か月積算の繰り返しによる年間連続測定	・蛍光ガラス線量計 素子主成分：銀活性リン酸塩 ・蛍光ガラス線量計リーダー
環境試料中の放射能	全ベータ放射能	原子力規制庁編「大気中放射性物質測定法」(令和4年制定)に準拠 ・環境放射線監視テレメータシステムでの年間連続測定	・空気中放射性塵埃測定装置(浮遊じん)間欠移動ろ紙式
	核種分析	・機器分析法 原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器によるγ線スペクトロメトリー」(令和2年改訂)に準拠 ・トリチウム 原子力規制庁編「トリチウム分析法」(令和5年改訂)に準拠 ・ストロンチウム90 原子力規制庁編「放射性ストロンチウム分析法」(令和7年改訂)に準拠	・ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータ 高純度ゲルマニウム半導体検出器 ・低バックグラウンド液体シンチレーション検出装置 ・低バックグラウンド自動測定装置

4 表示単位及び測定値の取扱い方法

(1) 空間放射線

項 目	表示単位	測 定 値 の 取 扱 い 方 法
空間放射線量率	nGy/h	表示の数値は、10分値及び1時間値である。表示は整数とし、小数第1位を四捨五入してある。 10分値は、10分間の計測値からの1時間換算値である。 1時間値は、正時から次の正時までの1時間の積算値である。
積 算 線 量	mGy	3か月積算値は91日に、年間積算値は365日に換算してある。表示は小数第2位までとし、小数第3位を四捨五入してある。

(2) 環境試料中の放射能

区分	試 料 名	表示単位	測 定 値 の 取 扱 い 方 法
全ベータ放射能	浮遊じん	Bq/m ³	表示は原則として有効数字2桁とし、3桁目を四捨五入してある。
核種分析	浮遊じん	Bq/m ³	①表示は原則として有効数字2桁とし、3桁目を四捨五入してある。 ②検出下限値は、次のとおりである。 ア 機器分析における検出下限値は、国の方法(※)にならいCooperの方法により、放射線計測時の正味の計数値がその計数誤差(計数に係る不確かさ)の3倍に等しくなるときの放射能濃度とする。 (※) 原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器によるγ線スペクトロメトリー」(令和2年改訂) イ 放射化学分析法における検出下限値は、放射線計測時の正味の計数値がその計数誤差(計数に係る不確かさ)の3倍に等しくなるときの放射能濃度とする。 ウ 検出下限値未満の測定値は、「*」で表す。
	陸 水	Bq/L	
	土 壌	Bq/kg乾	
	農 産 物	Bq/kg生	
	指標生物(松葉)	Bq/kg生	
	海 水	Bq/L	
	海 底 土	Bq/kg乾	
	海 産 物	Bq/kg生	
	指標生物(ホンダワラ類)	Bq/kg生	

IV 監視調査結果

1 空間放射線

(1) 空間放射線量率

(単位：nGy/h)

測定地点	令和8年度第1四半期の測定結果				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)				
	測定時間 (時間)	平均値	測定値の範囲		< 直 近 > 直近5カ年の 第1四半期 (R3～R7年度)		< 直 近 > 直近5カ年 (R3～R7年度)		< 事 前 > 事前調査期間 (S57.4～S59.12)
			1時間値	10分値	1時間値	10分値	1時間値	10分値	
MP-1	2,184	38	35～66	34～70	34～68	34～76	14～111	14～118	16～141
MP-2	2,184	31	29～60	28～63	28～65	28～70	11～100	11～111	6～130
MP-3	2,184	35	32～65	31～67	31～68	31～73	11～105	11～116	5～147
MP-4	2,184	36	33～64	32～66	32～67	31～73	11～103	10～108	5～146
MP-5	2,184	39	35～64	35～70	35～71	34～78	13～114	13～123	5～160
MP-6	2,184	36	33～62	32～67	33～74	32～80	11～119	11～133	5～174
MP-7	2,184	35	32～61	31～65	31～73	30～79	11～118	11～133	5～151
MP-8	2,184	34	31～59	30～63	30～70	30～76	12～115	12～129	5～143
MP-9	2,184	32	29～58	29～62	29～70	28～77	12～122	11～135	7～140
全地点	計19,656	35	29～66	28～70	28～74	28～80	11～122	10～135	5～174

(注) 平均値及び事前調査期間の測定結果は、1時間値である。

(2) 積算線量

(単位：mGy/91 日)

測 定 地 点		令和 8 年度第 1 四半期 の測定結果 (積算開始：R8. 3. 12 積算終了：R8. 6. 18 積算期間：98日間)	対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
			< 直 近 > 直近 5 カ年の 第 1 四半期 (R3～R7年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S57. 4～S59. 12)
発 電 所 敷 地 境 界 付 近	MP－1	0.12	0.12	0.12～0.16
	MP－2	0.11	0.11～0.12	0.09～0.17
	MP－3	0.12	0.12	0.09～0.15
	MP－4	0.12	0.12	0.08～0.15
	MP－5	0.12	0.12	0.09～0.15
	MP－6	0.12	0.11～0.12	0.09～0.15
	MP－7	0.11	0.11～0.12	0.09～0.14
	MP－8	0.11	0.11	0.10～0.14
	MP－9	0.11	0.11	0.10～0.14
	平均値	0.11	—	—
	最高値	0.12	0.12	0.17
	最低値	0.11	0.11	0.08
発 電 所 周 辺	柏崎市 椎谷	0.13	0.13	0.14～0.17
	刈羽村 滝谷	0.12	0.12～0.13	0.10～0.16
	柏崎市西山町坂田	0.13	0.13	0.09～0.16
	刈羽村 井岡	0.12	0.12	0.09～0.15
	柏崎市 曾地	0.13	0.13～0.14	0.09～0.17
	刈羽村 上高町	0.12	0.12	0.10～0.15
	柏崎市 与三	0.12	0.12～0.13	0.10～0.15
	柏崎市 上原	0.12	0.12～0.13	0.10～0.16
	柏崎市 松波	0.11	0.11～0.12	0.10～0.15
	平均値	0.12	—	—
	最高値	0.13	0.14	0.17
	最低値	0.11	0.11	0.09

(注) 事前調査期間の測定結果は、熱蛍光線量計 (TLD) による値である。

2 環境試料中の放射能

(1) 浮遊じんの全ベータ放射能

ア 6時間集じんの測定結果

(ア) 集じん終了直後の測定結果

(単位：Bq/m³)

測定地点	令和8年度第1四半期の測定結果				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
	集じん回数 (回)	平均空気吸引量 (m ³ /回)	平均値	測定値の範囲	<直近> 直近5カ年の 第1四半期 (R3～R7年度)	<直近> 直近5カ年 (R3～R7年度)
MP-1	357	73.1	1.1	0.097 ～ 3.4	0.075 ～ 4.2	0.034 ～ 4.2
MP-5	360	71.3	1.0	0.070 ～ 3.3	0.059 ～ 4.0	0.041 ～ 4.0
MP-8	362	71.2	1.1	0.081 ～ 3.5	0.071 ～ 4.2	0.030 ～ 4.3
全地点	計1,079	71.9	1.1	0.070 ～ 3.5	0.059 ～ 4.2	0.030 ～ 4.3

- (注) 1 測定時間は、すべて10分間である。
2 放射能濃度の有効数字は2桁である。

(イ) 集じん終了5時間後の測定結果

(単位：Bq/m³)

測定地点	令和8年度第1四半期の測定結果				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
	集じん回数 (回)	平均空気吸引量 (m ³ /回)	平均値	測定値の範囲	<直近> 直近5カ年の 第1四半期 (R3～R7年度)	<直近> 直近5カ年 (R3～R7年度)
MP-1	357	73.1	0.036	0.0019 ～ 0.13	* ～ 0.15	* ～ 0.24
MP-5	360	71.3	0.035	* ～ 0.14	* ～ 0.20	* ～ 0.24
MP-8	362	71.2	0.035	* ～ 0.15	* ～ 0.20	* ～ 0.23
全地点	計1,079	71.9	0.035	* ～ 0.15	* ～ 0.20	* ～ 0.24

- (注) 1 測定時間は、すべて10分間である。
2 *は検出下限値未満を示す。
3 放射能濃度の有効数字は2桁である。

(2) 核種分析結果（機器分析）

試料名		単位	令和8年度 第1四半期 の測定結果 (測定値の範囲)	対照期間の測定結果 (当該核種の測定値の範囲)	
				< 直 近 > 直近5カ年 (R3～R7年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S59.12まで)
浮遊じん		Bq/m ³	Cs-137 *	*	* ～ 0.00011
陸 水	飲 料 水	Bq/L	Cs-137 *	*	*
土 壌	陸 土	Bq/kg乾	Cs-137 1.2 ～ 1.9	* ～ 2.6	0.85 ～ 29
指 標 生 物	松 葉	Bq/kg生	Cs-137 * ～ 0.051	* ～ 0.12	0.18 ～ 6.7
海 水		Bq/L	Cs-137 *	* ～ 0.0032	0.0037
海 底 土		Bq/kg乾	Cs-137 *	*	*
海産物	マ ダ イ	Bq/kg生	Cs-137 0.081	0.093 ～ 0.12	0.21 ～ 0.24
	ワ カ メ		Cs-137 *	*	0.078
指 標 生 物	ホンダ ワラ類	Bq/kg生	Cs-137 *	* ～ 0.15	* ～ 0.16

(注) 1 人工放射性核種が検出されない試料についてはCs-137の放射能濃度を記した。

2 *は検出下限値未満を示す。

3 放射能濃度の有効数字は2桁である。

(3) 核種分析結果（ストロンチウム 90 の放射化学分析）

試 料 名		単 位	令和8年度 第1四半期 の測定結果 (測定値の範囲)	対照期間の測定結果 (当該核種の測定値の範囲)	
				< 直 近 > 直近5カ年 (R3～R7年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S59.12まで)
土 壤	陸 土	Bq/kg乾	0.20	* ～ 0.28	
海 産 物	マ ダ イ	Bq/kg生	0.029	* ～ 0.032	
指標生物	ホンダ ワラ類	Bq/kg生	0.029	0.042 ～ 0.057	

- (注) 1 *は検出下限値未満を示す。
2 放射能濃度の有効数字は2桁である。
3 Sr-90 は、平成21年度より土壌（陸土）及び指標生物（ホンダワラ類）について測定を開始し、海産物（マダイ）については令和元年度より測定を開始した。

(4) 核種分析結果（トリチウムの放射化学分析）

試 料 名		単 位	令和8年度 第1四半期 の測定結果 (測定値の範囲)	対照期間の測定結果 (当該核種の測定値の範囲)	
				< 直 近 > 直近5カ年 (R3～R7年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S59.12まで)
陸 水	飲 料 水	Bq/L	* ～ 0.65 ^{注3}	* ～ 0.55	1.6 ～ 4.4
海 水		Bq/L	*	* ～ 0.41	1.4 ～ 2.9

- (注) 1 *は検出下限値未満を示す。
2 放射能濃度の有効数字は2桁である。
3 計数誤差を併記した陸水（飲料水）のH-3濃度：0.65±0.14 Bq/L

V 参 考

海水放射能モニタによる測定

(1) 測定結果

海水放射能モニタの測定値は、降水等に含まれる天然放射性核種の影響を受けて上昇するが、その影響は各放水口に流れ込む降水の量と放流される冷却水量との比率により異なる。

冷却水量は各号機の運転状況により変動するため、各号機で検出されるレベルが異なる。

(単位：cpm)

調査地点		令和8年度第1四半期の測定結果		
		測定時間 (時間)	平均値	測定値の範囲 (10分値)
放水口 (南)	1号機放水口	2,165	444	388～1,212
	2号機放水口	2,168	439	396～1,129
	3号機放水口	2,169	416	372～1,244
	4号機放水口	2,170	446	400～1,358
放水口 (北)	5号機放水口	2,170	442	389～2,114
	6号機放水口	2,169	413	364～1,197
	7号機放水口	2,170	420	369～1,140

(2) 調査地点及び測定装置

調査項目	調査地点	測定装置	頻度
海水	放水口(南)(1～4号機) 放水口(北)(5～7号機)	3"φ×3" NaI(Tl) シンチレーション検出器	連続

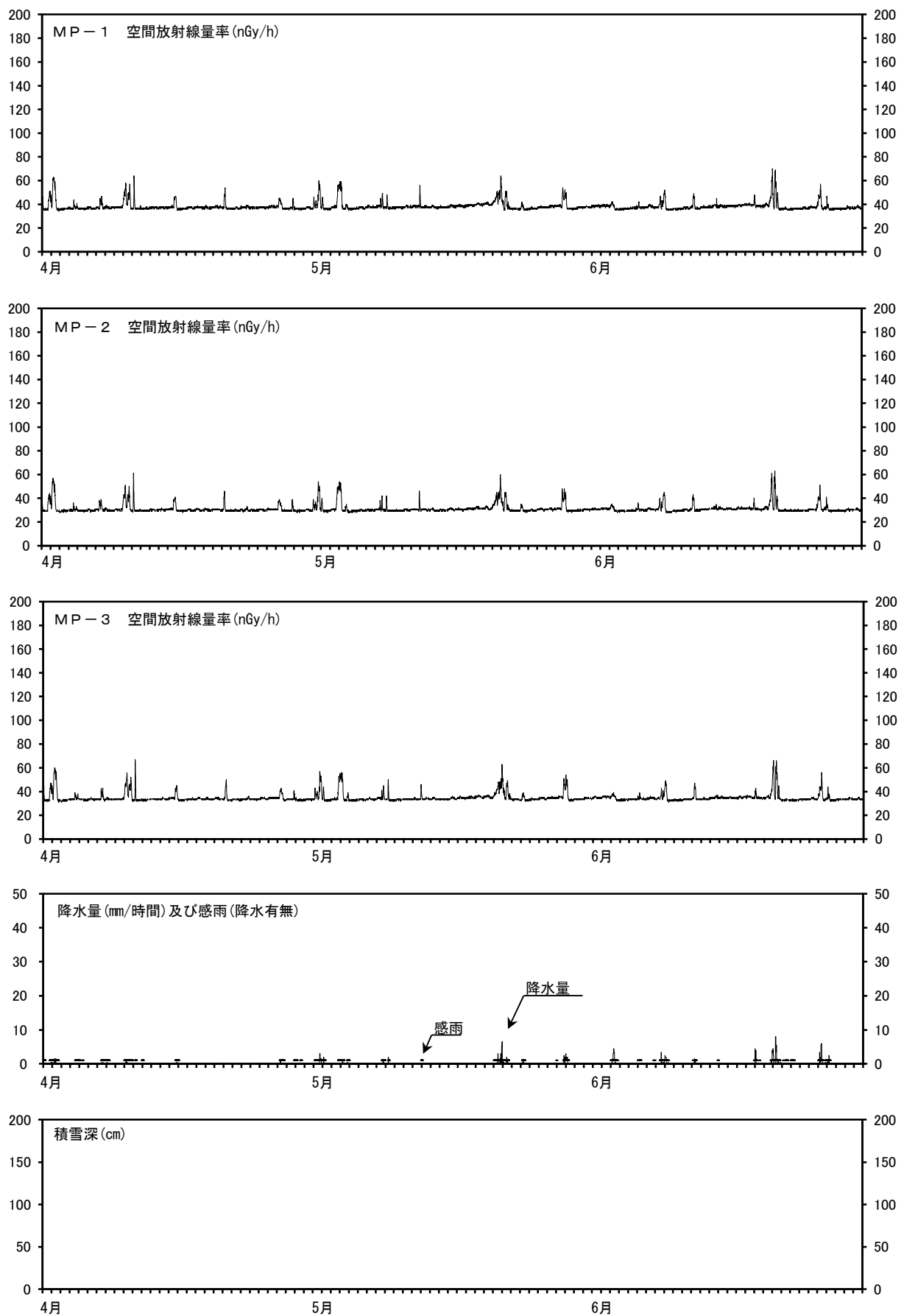
(補足)

海水放射能モニタの単位「cpm」とは、海水放射能モニタが1分間に検出した放射線の数(カウント毎分)のことを言う。

添 付 資 料

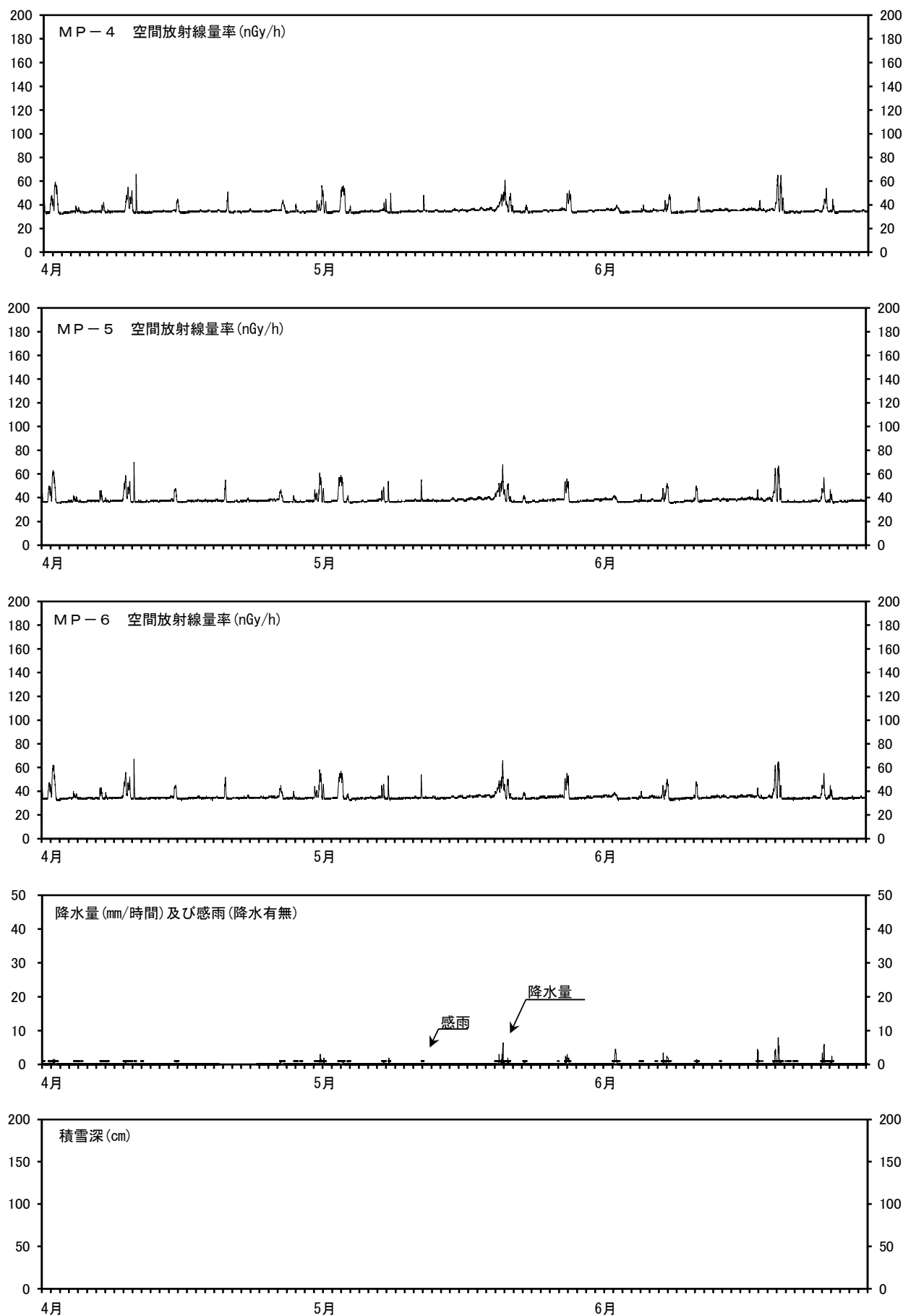
図 1	MP-1～3 の空間放射線量率と降水量及び積雪深との関係	17
図 2	MP-4～6 の空間放射線量率と降水量及び積雪深との関係	18
図 3	MP-7～9 の空間放射線量率と降水量及び積雪深との関係	19

図 1 MP－1～3の空間放射線量率と降水量及び積雪深との関係
(測定期間：令和8年4月1日～令和8年6月30日)



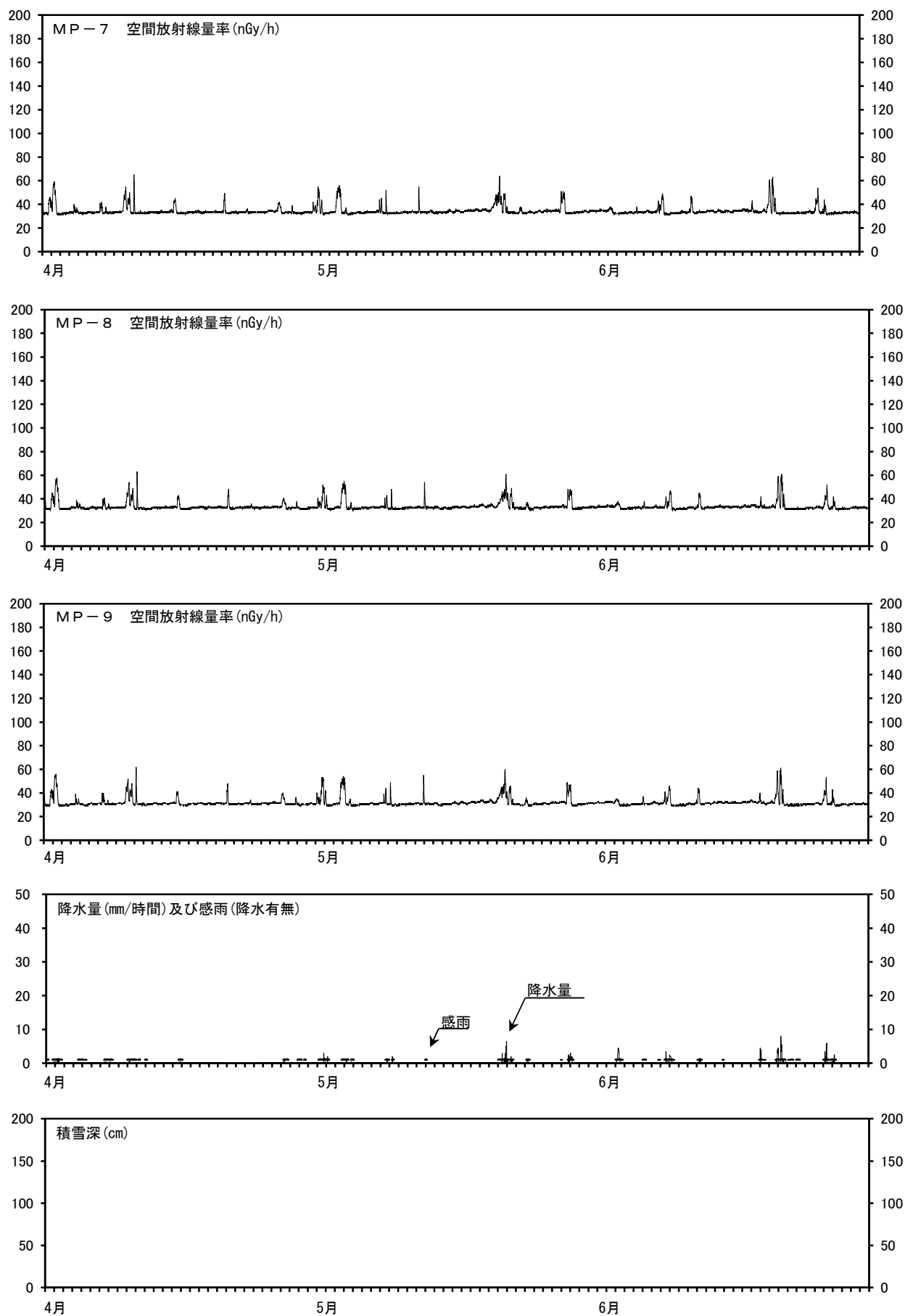
(注) 気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

図2 MP-4～6の空間放射線量率と降水量及び積雪深との関係
(測定期間：令和8年4月1日～令和8年6月30日)



(注) 気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

図3 MP-7～9の空間放射線量率と降水量及び積雪深との関係
(測定期間：令和8年4月1日～令和8年6月30日)



(注) 気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

令和 8 年 度

柏崎刈羽原子力発電所周辺
環境放射線監視調査結果速報

第 1 四半期（4 月～6 月）

令和 8 年 8 月発行

発 行 新 潟 県
新潟市中央区新光町 4 番地 1
電話(代) (025) 285 - 5511
東京電力ホールディングス株式会社
柏 崎 市 青 山 町 1 6 - 4 6
電話(代) (0257) 45 - 3131
